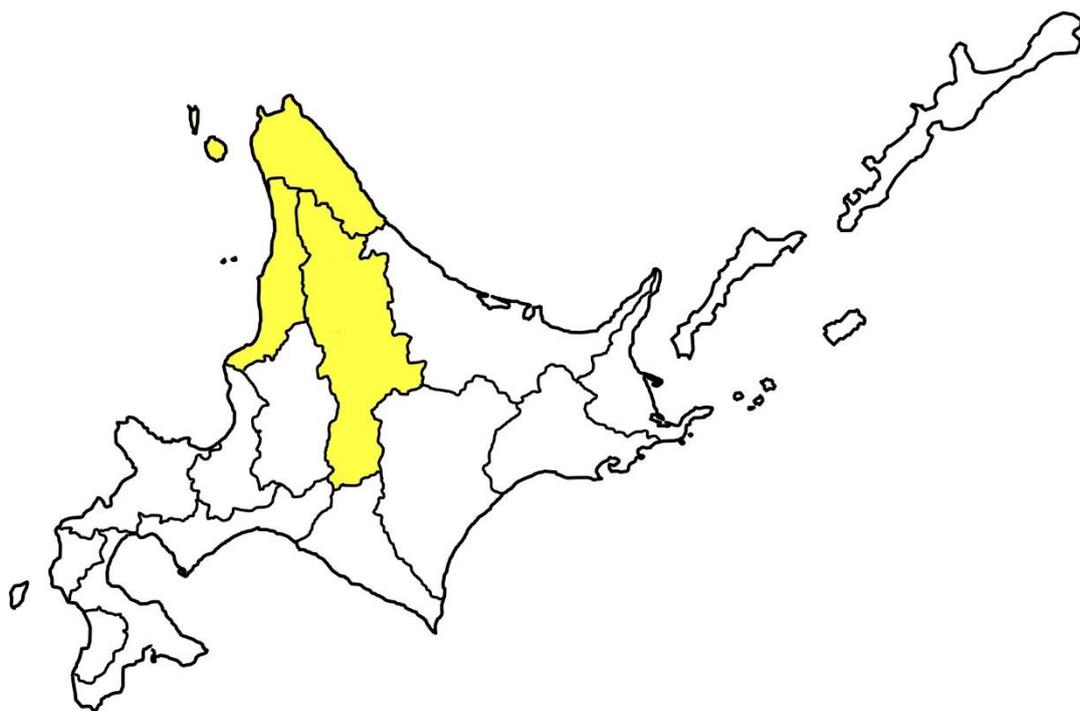


# 道北連携地域 政策展開方針(原案)

上川地域、留萌地域、宗谷地域



平成28年3月

# 目 次

1	はじめに	1
	基本的な考え方	
	方針の位置づけ	
	方針の構成	
	方針の推進期間	
2	地域のめざす姿	2
3	これまでの取組と課題	3
	連携地域のこれまでの取組と課題	
	振興局所管地域の人口減少下における課題	
4	主な施策の展開方向	10
	連携地域の主な施策の方向	
	振興局所管地域の重点的な施策の方向	
5	地域重点政策ユニット	12
6	方針の推進	55
	推進の考え方	
	効果的な推進	
	推進管理の体制	

# 1 はじめに

## 基本的な考え方

本道では全国を上回るスピードで人口減少が進んでおり、地域の経済や暮らしなど様々な分野への影響が懸念されています。

このような状況において、各地域が個性豊かで活力に満ちた持続可能な地域社会を実現していくためには、住民及び市町村の創意と主体性が発揮され、地域の特性や資源などを活用した取組を持続的に進めるとともに地域相互の連携と補完を図ることが重要となります。

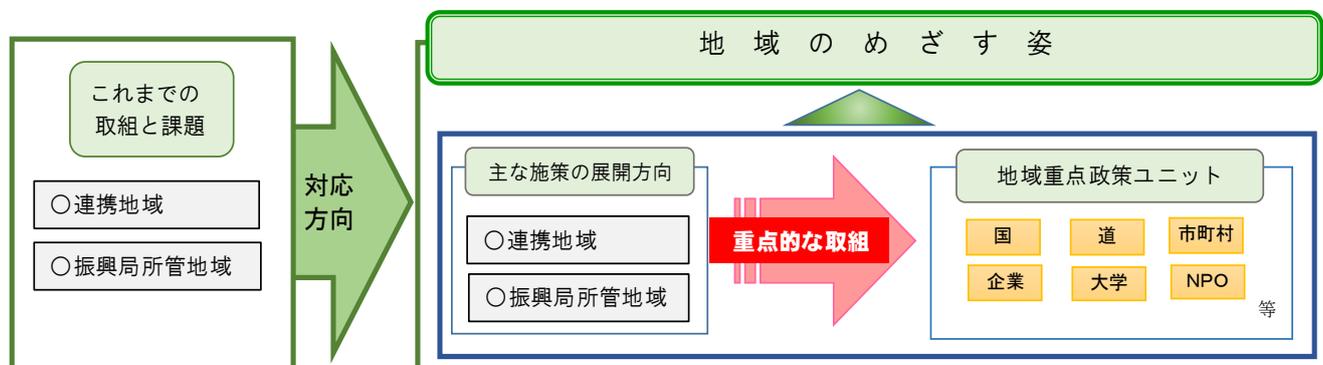
この方針は、総合計画の第4章地域づくりの基本方向に掲げた「個性と魅力を活かした地域づくり」と「様々な連携で支え合う北海道独自の地域づくり」の二つの視点を基本として、地域の課題を踏まえ、地域の強みと可能性を活かした施策を計画的かつ効果的に進めるため、市町村をはじめとした地域の関係者などの参画を得ながら、各振興局が主体となり策定します。

## 方針の位置づけ

この方針は、北海道地域振興条例第5条に基づき総合計画が示す政策の基本的方向に沿って、広域的な地域の区分ごとに地域振興を効果的に推進するための地域計画として策定するものであり、総合計画を推進する手立ての一つとして位置づけます。

## 方針の構成

地域のめざす姿	・概ね10年先の地域のめざす姿を示しています。
これまでの取組と課題	・連携地域と振興局所管地域におけるこれまでの取組と課題を記載しています。
主な施策の展開方向	・今後5年程度の連携地域における主な施策の方向と振興局所管地域の重点的な推進方向で構成しています。
地域重点政策ユニット	・地域重点政策ユニットの目的、推進エリア、実施主体、施策展開、重要業績評価指標(KPI)、関連する主な基盤整備を記載しています。



## 方針の推進期間

平成28年度から概ね5年

## 2 地域のめざす姿

---

広大な土地や特色ある自然環境、  
多様な資源を活かした産業が展開し、  
心豊かで安心して暮らせる「道北連携地域」

道北連携地域は、上川、留萌、宗谷の個性豊かな振興局所管地域で構成しています。

この地域は、大雪山系や利尻・礼文・サロベツ国立公園、暑寒別天売焼尻国立公園などの雄大な自然に恵まれ、農林水産業をはじめ、豊かな観光資源や新エネルギーなど、地域の優位性を活かした多様な産業が展開しているほか、ロシア連邦サハリン州等との交流が行われています。今後深刻化する人口減少社会においても、それぞれの地域の強みと可能性を活かした産業の振興や担い手の育成・確保に取り組むとともに、心豊かで安心して暮らせる地域を目指します。

### 3 これまでの取組と課題

#### 連携地域のこれまでの取組と課題

※ 平成25年3月策定の連携地域別政策展開方針の連携地域における「主な施策の展開方向」に基づき整理したもの。

#### ○地域特性を生かした産業振興

##### 【これまでの取組】

- ・良食味米の生産地区における技術指導や地元産米の消費者へのPR活動などを実施するとともに、YES! clean 表示制度の普及啓発などにより安全・安心で良質な農作物のPRに取り組んでいます。
- ・豊かな草地資源を活用した自給飼料主体の酪農を推進するとともに、規模拡大に対応した営農支援組織の育成などを図りながら、生産力の維持・拡大を図っています。
- ・林業における施業の低コスト化を図るため、適切な森林管理を推進するとともに、路網の整備と機械化を一体的に進めています。また、地域材の利用推進を図るため木造公共施設整備に対する支援を行うとともに、地元木材事業者と連携した留萌港からの韓国・中国へのトドマツ材の継続的な輸出に取り組んでいます。
- ・自主休漁や体長制限など計画的な資源管理を行うとともに、海域の特性に応じた資源づくりや増養殖事業、種苗放流といった安定的な栽培漁業の推進、漁港や漁場の計画的な整備に取り組んでいます。また、漁業の担い手の育成・確保に取り組むとともに、トドの駆除に対し支援するなど、海獣による漁業被害の防止対策を実施しています。
- ・新規就農者の課題等に対応した研修を重点的に実施し、経営マネジメント力の向上を図るとともに、農林業の担い手や後継者の育成・確保のため、旭川農業高校や遠別農業高校の生徒を対象とした就業意欲の喚起や就業に向けた支援等に取り組んでいます。
- ・大学、試験研究機関等の連携による地域産業の集積や高度化に取り組むとともに、健康産業の創出、産業間連携による新商品開発の促進、食をテーマとしたイベントの開催や地域の食材を使った付加価値の高い商品開発を行うなど、地域ブランドの創出に取り組んでいます。
- ・建設産業が持続的に成長できるよう、経営力の強化や人材の確保などの取組に支援を行っています。
- ・農産物などの道産品の輸出拡大に向けて、貿易セミナーやユジノサハリンスク市で「道北物産展」を開催するなどサハリン州との経済交流が進められています。

##### 【課題】

- ・2016（平成28）年2月にTPP協定交渉が合意に至り、長期にわたる様々な影響が懸念されており、地域農業の生産力を維持するため、生産性のさらなる向上や、実需者や消費者のニーズ、地域の強みを活かした農業生産を展開する必要があります。
- ・自給飼料主体の草地型酪農等を推進するため、良質な自給飼料の生産拡大と生産性の向上が必要です。
- ・人工林資源が利用期を迎える一方、木材価格の低迷などにより停滞する地域材の利用拡大が必要です。
- ・水産資源の持続的な利用に向けた適正な資源管理や安定的な栽培漁業の推進、深刻な漁業被

害をもたらしている海獣被害対策の強化が求められています。

- ・地域の産業は厳しい経営環境にあることから、地域の特性を活かしたものづくり産業の高度化を図ることが必要です。
- ・食のブランド化を促進するため、地域食材の特性を活かした商品の開発や磨き上げ、販売拡大に向けたプロモーションの強化、食クラスター活動に携わる人材の育成が必要とされています。
- ・建設投資の大幅な減少などで、建設産業は厳しい経営環境におかれており、経営力の強化が必要です。
- ・農林漁業や建設業における就業者等の減少・高齢化により、地域産業を担う人材確保が課題となっており、女性や高齢者の活動促進を含めた担い手の育成・確保や、営農支援組織の一層の推進が必要です。
- ・サハリン州との経済交流は極東地域を含め拡がりをみせているが、輸出にあたっては、輸送手段の確保や、通関手続きの煩雑さ、高率な輸出関税などが課題となっています。

## ○多様な魅力あふれる観光の振興

### 【これまでの取組】

- ・「食と観光」の融合によるフードツーリズムの推進や地域資源を活用した観光素材の開発及び各種イベント等を通じたPRに取り組んでいます。
- ・北海道新幹線開業に向けて気運の醸成を図るとともに、函館から航空路を活用した道北モニターツアーを実施するなど、開業を踏まえた利活用対策を実施しています。
- ・観光プロモーションの実施や外国語パンフレットの作成など、外国人観光客誘致に向けた取組を推進しています。

### 【課題】

- ・新たな観光資源の発掘や広域観光ルートの構築、既存メニューの磨き上げを図り、観光客の多様なニーズに応じた観光地づくりを図るとともに、地域の情報を効果的に発信する取組が必要です。
- ・北海道新幹線の開業効果を波及させるため、函館から道北地域までの二次交通の整備に関する具体策を検討することが必要です。
- ・外国人観光客の受入体制の整備や効果的なプロモーションに取り組むことが必要です。

## ○環境と調和した、安全・安心な地域づくり

### 【これまでの取組】

- ・大雪山等の自然環境の保全に係る普及啓発資材の配布や関係団体と連携した高山植物盗掘防止のための監視パトロール、さらには復元した増毛山道における体験トレッキングの開催などを通じて、地域のPRや自然環境の保全意識の啓発に取り組んでいます。
- ・上川総合振興局に木質バイオマス推進室を設置し、林地未利用材等の木質バイオマスを低コストで安定的に供給するため、低コスト生産モデル事業や木質バイオマス発生情報提供システムの試行的な運用に取り組んでいます。また、留萌地域では小学校に木質ペレットボイラーを導入し、利用拡大に向けた取組を進めています。

- ・風力、太陽光、地熱、雪氷冷熱など再生可能エネルギーの開発・導入など環境との調和を図るための取組が進められています。
- ・天売島では、自然に優しく環境に配慮した離島の活性化及び災害に強い地域づくりを進めるため、エコ生活、エコ観光の推進や再生可能エネルギーの地産地消などに取り組んでいます。
- ・ドクターヘリのランデブーポイントの確保やヘリポートの整備に取り組んでいます。
- ・地域救命救急センターの整備や地域包括ケアシステムの構築など、医療と保健・福祉サービスの充実が進められています。
- ・防災関係機関担当者会議を実施し、自主防災組織活動カバー率の向上や連携強化を図っています。
- ・災害に備えた防災施設や体制等の整備、土砂災害対策、防災訓練の実施に取り組んでいます。
- ・移住フェアへの参加や移住関連ポータルサイトによる情報発信とともに、地域の「ひと」や「しごと」の魅力を活かした若年層の定住、U I ターンの施策を推進しています。
- ・野生鳥獣の適正な保護管理のための取組や支援を行っています。

### 【課題】

- ・貴重で豊かな大雪山等の自然を次世代に引き継ぐため、継続して自然環境の保全意識の啓発を図ることが必要です。
- ・木質バイオマスの利用促進については、安定的に供給するための仕組みを確立することが課題であるため、低コストな集荷体制の検討や関係者との連携した取組が必要です。
- ・再生可能エネルギーの中でも、風力発電や太陽光発電は、出力が変動することから、十分な調整電源を持つ他のエリアとの広域連携の実現が解決策の一つであり、北海道本州間連系設備の整備などが求められます。
- ・医療従事者の地域偏在の解消を図るとともに、地域にふさわしい病床機能の分化と連携を推進することが必要です。
- ・地域において安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりのための子育て支援体制の構築に向けた取組が必要です。
- ・十勝岳の火山噴火対策や異常降雨に対応するための河川、砂防等施設整備を促進するとともに、土砂災害警戒区域等の指定などによる警戒避難体制の整備、自主防災組織率向上に向けた検討や関係機関と防災体制の連携、防災施設の整備が必要です。
- ・若年層の定住、U I ターンを促進するため、関係機関が連携し、就業体験の機会創出や首都圏での効果的なプロモーションに取り組む必要があります。
- ・野生鳥獣の適正な保護管理については、効果的な捕獲手法の確立や、計画的な捕獲体制の構築、担い手確保の取組が必要です。

## ○離島地域の振興

### 【これまでの取組】

- ・良質な水産物の安定供給や適切な資源管理のため、ウニやニシンなどの栽培漁業の推進や、ナマコなど新たな魚種の生産・放流技術の確立に取り組むとともに、漁業者による自主的な資源管理や魚礁漁場の造成を行っています。

- ・「漁業就業支援フェア」へ参加するとともに、地域の関係者が連携して漁業体験研修や国の技術習得研修を実施するなど、新規漁業就業者の確保に取り組んでいます。
- ・道内5離島が連携したスタンプラリーや離島を舞台にした宝探しイベントの実施など、個性豊かな自然と風土を生かした特色ある離島観光振興に取り組んでいます。
- ・ICTを活用した遠隔診療の実施に向けた実証実験や妊産婦への航路運賃の助成、プロパンガスの価格安定に努めるとともに、離島航路や空路の維持確保など、離島住民の暮らしの安全・安心確保に向けた取組を進めています。

#### 【課題】

- ・減少傾向にあるホッケやスケトウダラなどの資源管理や、地域の特性に応じた安定的な栽培漁業、さらには、水産資源の持続的利用と効率的供給体制を整備するための漁場を造成する必要があります。
- ・漁業就業者の減少や高齢化が著しいことから、地域の関係者が連携して、新規漁業就業者の確保に一層取り組む必要があります。
- ・地域資源の掘り起こしや底上げを行うとともに、離島の魅力を積極的に情報発信するなど、札幌や首都圏などからの交流人口を増加させる観光振興の取組が必要です。
- ・「有人国境離島」を巡る国の動向などをふまえ、本土との生活環境の格差是正や物流コストの軽減を図るなど、離島地域の一層の環境整備に努める必要があります。

### ○暮らしや産業を支える交通・情報ネットワークの形成

#### 【これまでの取組】

- ・旭川十勝道路や北海道縦貫自動車道、深川・留萌自動車道などの高規格幹線道路等の整備、留萌港の整備、空港の機能強化や道路アクセスの向上のほか、鉄道の維持や高速化の促進など、地域の生活を支える交通ネットワークの形成に取り組んでいます。
- ・「地域情報化推進会議」を開催し、ブロードバンドの整備や利活用事例等を情報共有し、情報化の推進を図っています。

#### 【課題】

- ・高規格幹線道路をはじめ、地域の生活と産業を支える交通・情報ネットワークなどの基盤整備を図るほか、鉄道など既存の交通ネットワークを維持・確保していく必要があります。

## 振興局所管地域の人口減少下における課題

### 上川地域

#### ■農林業の振興

・農林業においては、農業者の高齢化・離農等による戸当たりの経営面積の増加や、今後利用期を迎える人工林の適切な森林づくりと、これに伴い産出される木材の利用促進などが課題となっており、農林業の低コスト化・省力化や、豊富な農林産物の付加価値向上、森林資源を活かした新エネルギーの導入や普及などの取組が必要となっています。

作物作付面積	77,275ha (H22)	→	79,213ha (H25)
木材・木製品出荷額	18,076 百万円 (H21)	→	17,369 百万円 (H25)

農林水産省「作物統計」、北海道農政部調べ  
北海道「北海道工業統計調査」

#### ■観光振興・交流人口の拡大

・少子高齢化や都市部への人口流出が続いており、観光等での来訪促進や魅力あふれる通年・滞在型の観光地づくりを推進し、地域経済への波及効果を高めていく必要があります。

観光入込客数	1,795 万人 (H24)	→	1,862 万人 (H26)
外国人宿泊者数	240,597 人 (H24)	→	524,313 人 (H26)

北海道「北海道観光入込客調査」

#### ■担い手対策

・人口減少や高齢化が進む中、基幹産業である第1次産業や関連産業の担い手不足が懸念されていることから、地域産業を担う人材を育成・確保することが必要となっています。

農家戸数	10,777 戸 (H17)	→	9,104 戸 (H22)
農業就業人口	21,901 人 (H17)	→	17,722 人 (H22)
林業労働者数 (常用)	619 人 (H21)	→	608 人 (H25)
地域産業 (農業・林業) への新規就労者数			
農業	137 人 (H24)	→	124 人 (H25)
林業	38 人 (H21)	→	36 人 (H25)

農林水産省「農林業センサス」(H17)、「世界農林業センサス」(H22)  
北海道農政部調べ、上川総合振興局農務課調べ  
北海道「北海道林業労働実態調査」

## 留萌地域

### ■農林水産業の振興と雇用の創出

- ・基幹産業である第1次産業における高齢化や担い手減少は、全道平均より高い割合で推移していることから、担い手の育成・確保に向けた取り組みが必要となっています。

生産額	・農協販売支払高	140.8億円 (H19)	→	149.6億円 (H25)	農協中央会「北海道JA要覧」
	・漁業生産高	106.9億円 (H14)	→	102.3億円 (H24)	北海道「留萌振興局水産課調」
担い手	・農家戸数	1,369戸 (H17)	→	1,144戸 (H22)	農林水産省「農林業センサス」(H17) 「世界農林業センサス」(H22)
	・漁業組合員数	653人 (H21)	→	543人 (H25)	北海道「水産林務部調」

### ■交流人口の拡大

- ・観光客が夏期に集中する季節偏在、日帰り型の観光地域であるなど観光入込客の低迷が続いていることから、新たな観光スポット開拓や広域観光ルートの構築が求められています。

観光入込客数	139.2万人 (H24)	→	138.8万人 (H26)
日帰・宿泊客数	・日帰り客 90.7% (H26)	・宿泊客 9.3% (H26)	

北海道「観光入込客調査」

### ■移住・定住の推進

- ・人口減少・高齢化が進む中、地域おこし協力隊や移住・定住の推進により、他地域からの人口流入促進による地域の活性化が求められています。

移住体験者	37人 (H26)	北海道「総合政策部調」
地域おこし協力隊	38人 (H27 累計)	北海道「留萌振興局地域政策課調」

## 宗谷地域

### ■ 1次産業の担い手の育成・確保

- ・酪農や漁業の就業者が高齢化し、減少している中で、自給飼料主体の草地型酪農や海域の特性を活かした漁業など、地域を支える1次産業の持続的な発展のために、担い手の育成・確保が必要となっています。

農家戸数	1,235 戸 (H17)	→	1,088 戸 (H22)
農業就業人口	2,220 人 (H17)	→	2,042 人 (H22)
新規就農者数	18 人 (H23)	→	11 人 (H25)
漁業経営体数	2,027 経営体 (H20)	→	1,758 経営体 (H25)
新規漁業就業者数	44 人 (H21)	→	32 人 (H25)

農林水産省「農林業センサス」(H17)、「世界農林業センサス」(H22)、「漁業センサス」  
北海道農政部調べ、宗谷総合振興局農務課調べ  
北海道水産林務部調べ、宗谷総合振興局水産課調べ

### ■ 移住・定住の推進

- ・道内他地域への転出超過が大きく、特に就学や就職を契機とした若年層の人口流出が著しいことから、都市部学生のU I ターンの促進など効果的な移住施策を推進する必要があります。

道内他振興局への転出超過	436 人 (H26)
若年層 (15~34 歳) の人数	16,497 人 (H17) → 13,537 人 (H22)

総務省「住民基本台帳人口移動報告」、「国勢調査」

### ■ 地域の特色を活かした観光の促進

- ・人口減少に伴う域内需要の減少等に対応するため、食と観光の連携や、道内外はもとよりサハリン州やアジアからの観光客の来訪促進など、交流人口を増やす必要があります。

観光入込客数	182 万人 (H24)	→	185 万人 (H26)
外国人宿泊客数	10,217 人 (H24)	→	15,324 人 (H26)

北海道「北海道観光入込客数調査」

## 4 主な施策の展開方向

### 連携地域の主な施策の方向

#### ○ 地域特性を活かした産業振興

- ・ 基幹産業である農林水産業における生産基盤の強化と安定供給
- ・ 地域産業における担い手の育成・確保や女性が活躍できる環境づくり
- ・ 地域の特色ある農林水産物のブランド力の強化や6次産業化など産業間連携の展開、国内外への販路拡大
- ・ 産学官金の連携による産業の創出・育成
- ・ 地域の強みである「食と健康」を活かした健康産業の創出
- ・ 地域資源を活かした企業立地の促進
- ・ ロシア極東との経済・文化交流の推進
- ・ 建設産業の経営力強化などの促進

#### ○ 多様な魅力あふれる観光の振興

- ・ 雄大で美しい自然環境や多彩な食などの地域資源を活かした通年・滞在型観光地づくりや広域観光の推進
- ・ 外国人観光客の受入体制の整備・促進
- ・ 広域的なスポーツ、アウトドアイベントの開催やスポーツ・音楽合宿の誘致等
- ・ 北海道新幹線の開業効果を地域に波及させるための取組の推進

#### ○ 豊かな自然環境と調和した、安全・安心な地域づくり

- ・ 自然特性を活かした風力、太陽光、雪氷、地熱、木質バイオマスなどを活用した新エネルギーの導入や普及を進めるほか、水素エネルギーの活用に向けた取組の推進
- ・ 地域医療と保健・福祉の充実、少子化対策に向けた取組の推進
- ・ 災害に強いインフラの整備と防災・減災体制の充実・強化
- ・ コンパクトなまちづくりや高齢者が暮らしやすい環境づくりの推進
- ・ 地域を支える多様な人材の育成・確保と移住・定住の取組の推進
- ・ 野生鳥獣の適正な保護管理・利活用のための取組の推進

#### ○ 離島地域の振興

- ・ 領海や排他的経済水域の保全など、国家的な役割を踏まえた離島地域社会の維持
- ・ 基幹産業である水産業や観光産業の振興
- ・ 医療体制や交通・情報通信基盤の整備など安全・安心な離島生活の確保

#### ○ 生活や産業を支える交通・情報ネットワークの形成

- ・ 地域の生活と産業を支える交通ネットワークの維持・確保及び充実、高度情報通信網の整備

## 振興局所管地域の重点的な施策の方向

### 上川地域

上川で育成された高品質ブランド米「ゆめぴりか」に代表される米や多種多様な野菜などが豊富に生産される農業、全道一の森林面積を擁する森林資源など、地域が有する豊かな資源を活かした農林業の振興を図ります。

また、天塩川や大雪山など特色ある自然や多彩な食、旭川空港の機能や旭山動物園などの観光資源の活用、富良野・美瑛観光圏をはじめとした広域観光の推進などにより、地域の魅力を高め、雇用創出や交流人口の拡大を図るほか、地域産業を担う人材の育成・確保を図ります。



### 留萌地域

良食味米はじめとする農産物、新鮮な水産物などバラエティ豊かな食材や暑寒別天売焼尻国定公園、日本海オロロンラインの自然など豊かな地域資源を活かし、来萌（らいほう）者の拡大に向けた情報発信など即効性のある施策と担い手確保など息の長い対策を推し進め、持続可能な産業振興と雇用の創出につなげるとともに、交流人口の拡大や住み続けたいと思える生活環境づくりを進めます。



### 宗谷地域

広大な土地を背景にした酪農や日本海とオホーツク海の海域の特性を活かした漁業を基幹産業とし、利尻・礼文などの魅力ある観光資源や風力などの自然エネルギーに恵まれているという地域の特性を踏まえ、農林水産業の担い手育成・確保や移住・定住の推進、地域資源を活かした観光振興や新エネルギーの導入・普及のほか、隣国であるロシアとの経済交流の推進により、雇用の創出や交流人口の拡大を図ります。



## 5 地域重点政策ユニット

地域重点政策ユニットは、主な施策の展開方向に基づいて、重点的に取り組むプロジェクトです。

地域重点政策ユニットのプロジェクト名称	推進エリア
1 魅力ある地域資源を活かした道北地域への来訪促進プロジェクト	道北連携地域
2 安全・安心な地域づくりプロジェクト	道北連携地域
3 新エネルギー導入・活用推進プロジェクト	道北連携地域
4 ロシア極東との交流推進プロジェクト	道北連携地域
5 天塩川ブランド力向上プロジェクト	道北連携地域
6 地域産業の担い手育成・確保プロジェクト	上川地域
7 上川地域の強みを活かした農林業振興プロジェクト	上川地域
8 人と自然をつなぐ大雪山魅力発信プロジェクト	上川地域
9 るもい発「食・健康物語」プロジェクト	留萌地域
10 留萌の環境を守り育てるプロジェクト	留萌地域
11 日本海オロロンライン元気づくりプロジェクト	留萌地域
12 活力ある宗谷の1次産業推進プロジェクト	宗谷地域
13 人と自然が共生する地・宗谷創造プロジェクト	宗谷地域

# 魅力ある地域資源を活かした道北地域への来訪促進プロジェクト

【推進エリア】道北連携地域（上川地域、留萌地域、宗谷地域）

【主な実施主体】国・道・市町村・民間

## 目 的

天塩川や大雪山、日本海オロロンライン、利尻礼文サロベツ国立公園をはじめとした特色ある自然、高品質ブランド米や多種多様な野菜、果樹、豊富な海産物や乳製品などの食、歴史や写真、絵本などの芸術文化等を活かした地域の魅力発信、広域周遊や体験・滞在型観光等を推進するほか、スポーツ・音楽の合宿の誘致などを通じて、道北地域への来訪促進を図ります。

## 施策展開

- 【施策】
- 特色ある自然や歴史、芸術文化をテーマとした地域の魅力発信
  - 地方空港の活性化に向けた取組の推進
  - 「食」や「食文化」をテーマとしたフードツーリズムの推進
  - 広域周遊観光や体験・滞在型観光等の推進
  - 離島観光の推進
  - 地域の気候風土や街並みなどを活かしたスポーツや音楽合宿の誘致

### 〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI）〉

○観光入込客数 2,186 万人（H26） → 2,343 万人（H31）

[内訳]

観光入込客数（上川） 1,862 万人（H26） → 2,000 万人（H31）

観光入込客数（留萌） 139 万人（H26） → 145 万人（H31）

観光入込客数（宗谷） 185 万人（H26） → 198 万人（H31）

○外国人宿泊者数（延べ数） 539 千人（H26） → 964 千人（H31）

[内訳]

外国人宿泊者数（延べ数）（上川） 524 千人（H26） → 939 千人（H31）

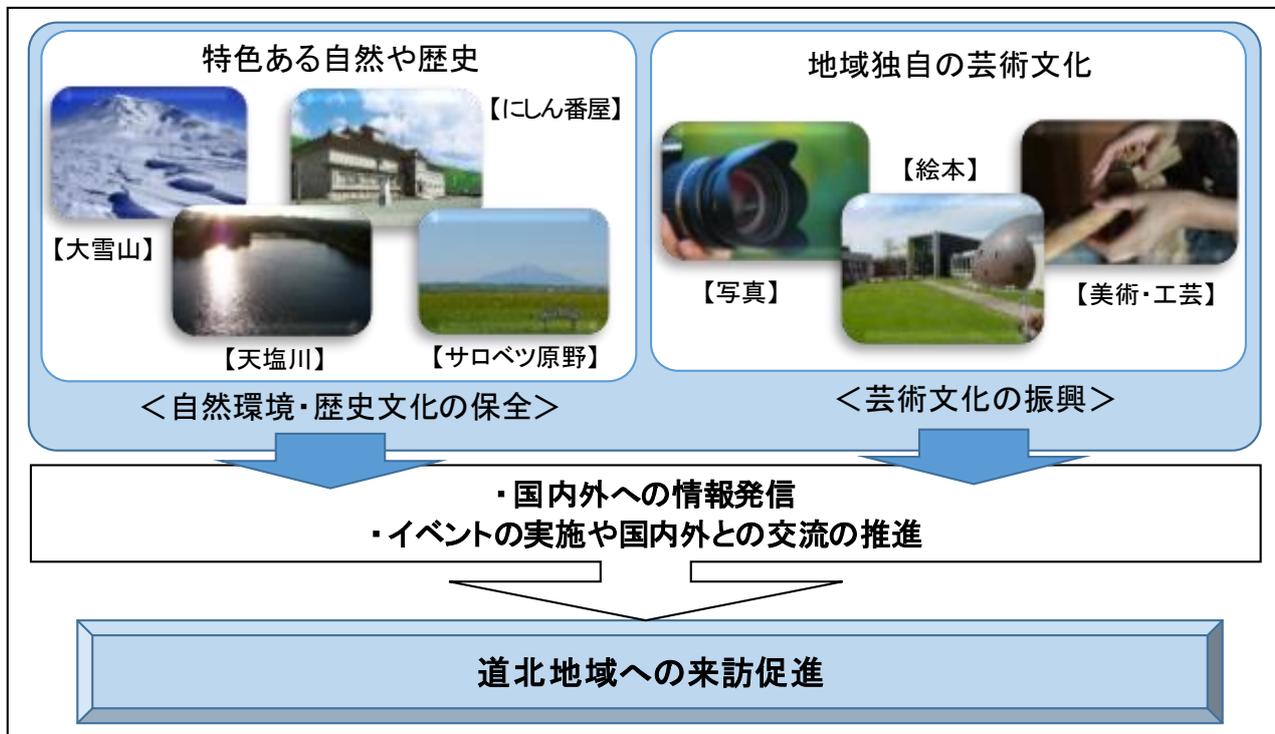
外国人宿泊者数（延べ数）（留萌） 1 千人（H26） → 1 千人（H31）

外国人宿泊者数（延べ数）（宗谷） 15 千人（H26） → 24 千人（H31）

<施策毎の主な取組方向>

■ 特色ある自然や歴史、芸術文化をテーマとした地域の魅力発信

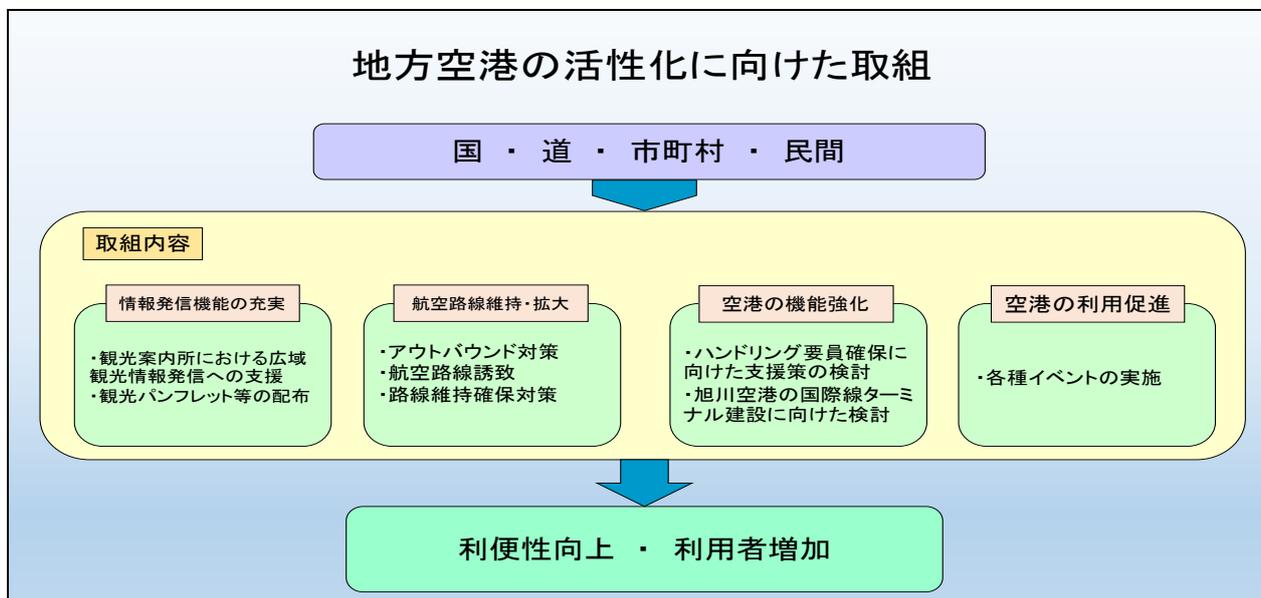
- 特色ある自然や地域特有の歴史・風土、芸術文化に関する国内外への情報発信（＊）
- 自然や芸術文化等をテーマとしたイベントの実施や国内外との交流の推進（＊）
- 自然環境・歴史文化の保全や芸術文化の振興（＊）



<施策毎の主な取組方向>

■ 地方空港の活性化に向けた取組の推進

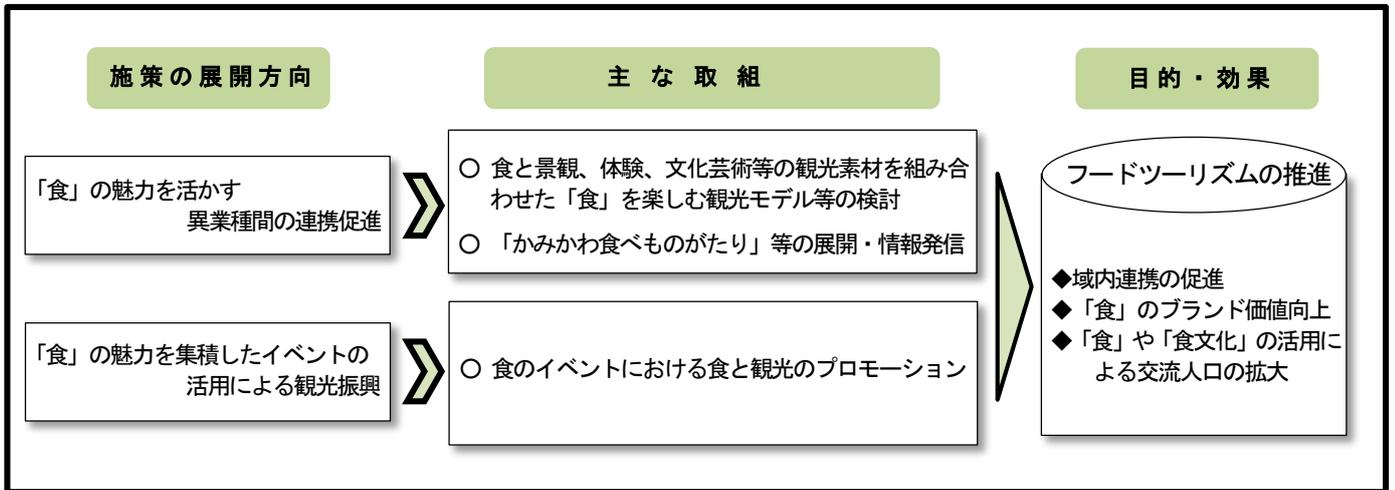
- 観光情報発信機能の充実など利便性向上に向けた取組の推進（＊）
- 航空路線維持・拡大に向けた取組の推進（＊）
- 空港の機能強化に向けた取組の推進（＊）
- 空港の利用促進に向けた取組の推進（＊）



<施策毎の主な取組方向>

■ 「食」や「食文化」をテーマとしたフードツーリズムの推進

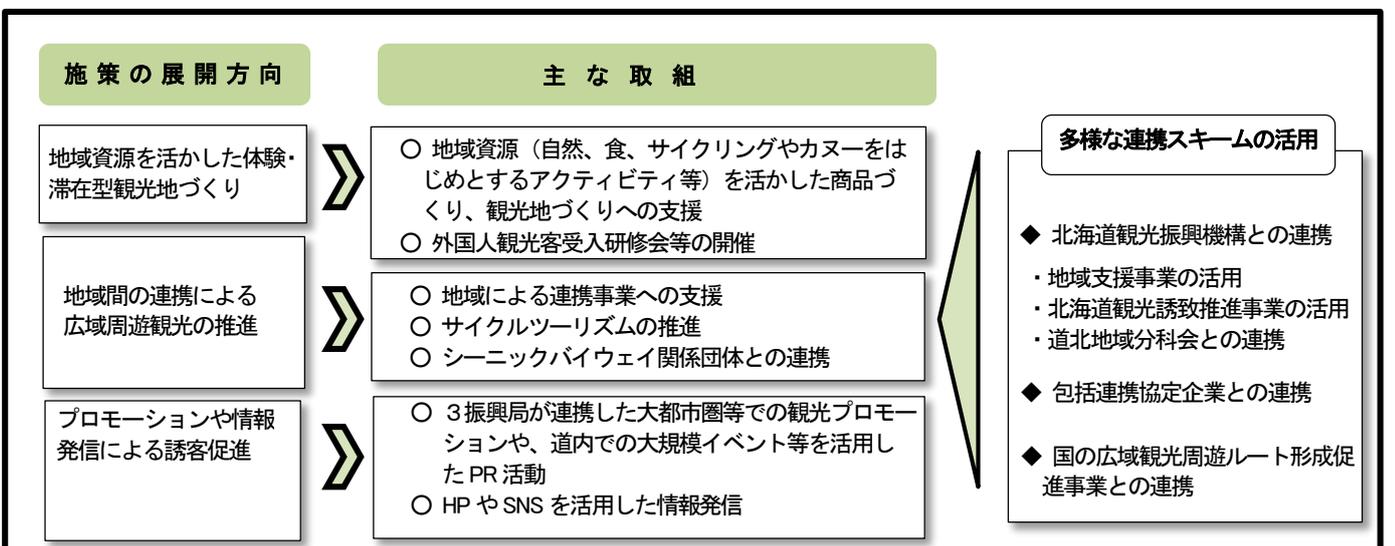
- 「食」の魅力を活かす生産者、観光事業者、ホテル・飲食店等の連携促進（＊）
- 道北地域の「食」の魅力を集積したイベントの活用による観光振興（＊）



<施策毎の主な取組方向>

■ 広域周遊観光や体験・滞在型観光等の推進

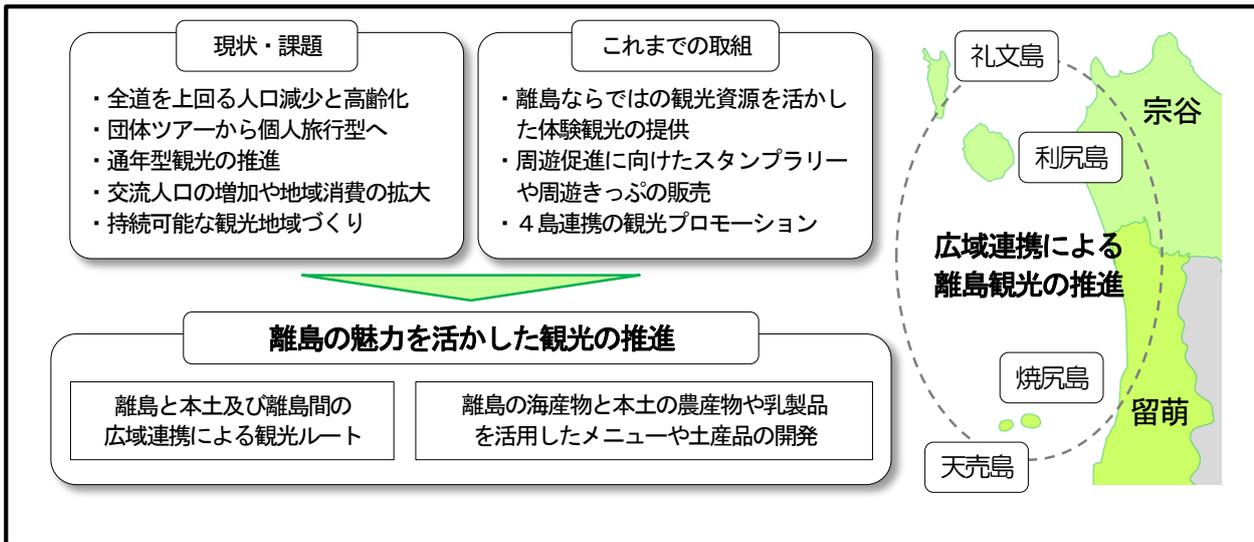
- 体験観光メニューの開発や受入体制の整備等による観光地づくり（＊）
- 地域間の連携による広域周遊観光の推進（＊）
- 3振興局の共同プロモーション及び情報発信による誘客促進（＊）
- 国の広域観光周遊ルート形成促進事業と連動した広域観光の推進（＊）



<施策毎の主な取組方向>

■ 離島観光の推進

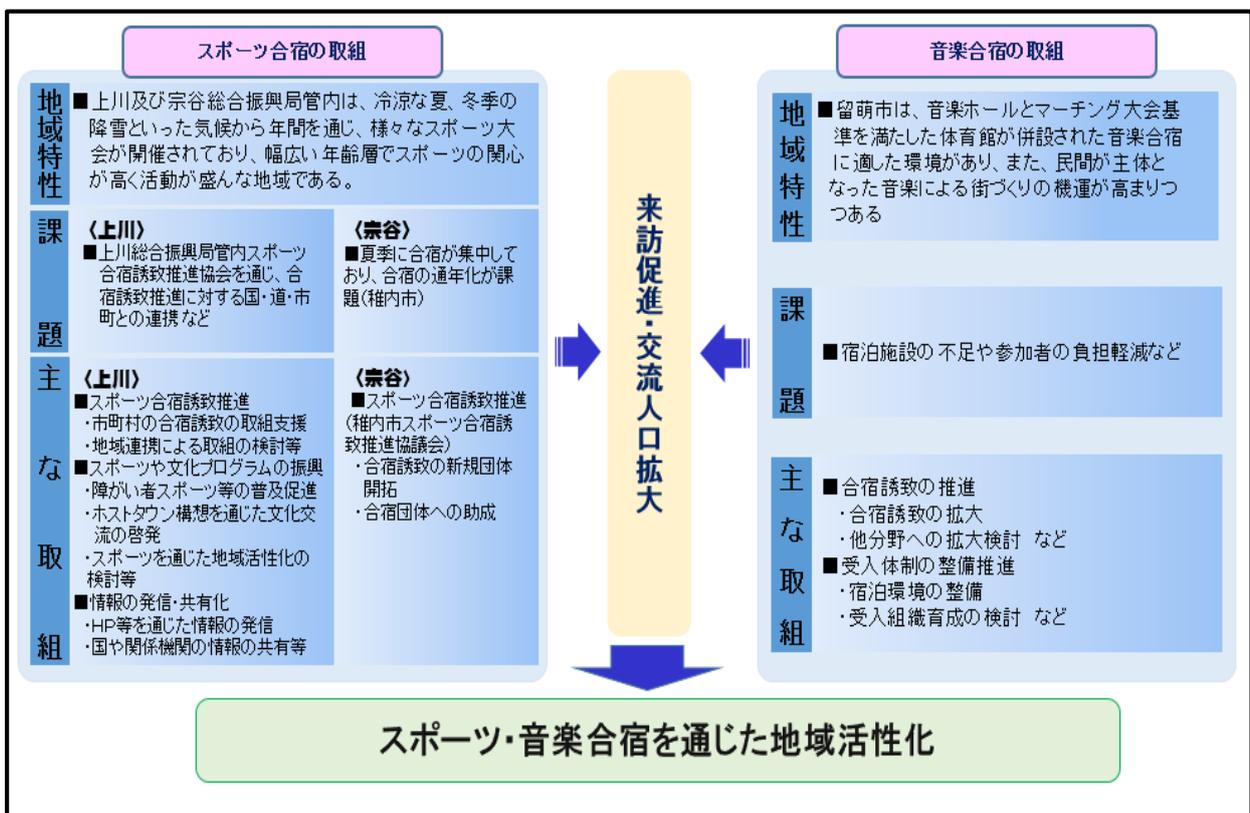
○離島の魅力を活かした観光の推進（\*）



<施策毎の主な取組方向>

■ 地域の気候風土や街並みなどを活かしたスポーツや音楽合宿の誘致

- スポーツ及び音楽の合宿誘致（\*）
- スポーツや文化プログラムの振興（\*）
- 情報の発信・共有化（\*）
- 受入体制の整備推進（\*）



## 関連する主な基盤整備

- 高規格幹線道路等の整備
  - ・高規格幹線道路の整備促進
  - ・地域高規格道路の整備促進
- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
  - ・観光拠点へのアクセス道路の整備促進
  - ・航空機の安定運行確保など、空港機能維持のための施設整備
- 都市の活性化や再生に向けた都市基盤の整備
  - ・都市の円滑な交通を確保するためのバイパス、環状・放射道路の整備推進
  - ・渋滞解消や市街地の一体化のための立体交差などの整備推進

(\*) の取組は、北海道創生総合戦略の地域戦略に関連するもの

# 安全・安心な地域づくりプロジェクト

【推進エリア】道北連携地域（上川地域、留萌地域、宗谷地域）

【主な実施主体】国、道、市町村、民間

## 目的

少子高齢化が進むなか、広大で離島も有する道北地域において、心身ともにすこやかに活力ある生活を送るためには、病気の予防・生活習慣の改善など自らの健康の保持・増進が重要であるとともに、地方・地域センター病院を中心に地域における医療機関が機能分担と連携を図り、地域に必要な医療体制を確保し、救急医療体制を充実することが求められています。

また、安心して子供を産み育て、高齢者を含めた誰もが住み慣れた街で元気に暮らせることが必要とされています。

こうしたことから、地域住民が健康で安心して暮らせるよう、地域の連携による医療体制の確保や地域包括ケアシステムの構築を図るとともに、安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりのための子育て支援施策の充実に努めます。

また、近年の激甚化する自然災害等に対する防災対策として、市町村への情報提供や研修会の開催による自主防災組織の充実、防災関係機関の連携強化による地域防災力の向上など、地域住民が安心して暮らせるよう、防災・減災の取組を進めていきます。

## 施策展開

【施策】 ■ 全ての世代が安心して暮らせる環境づくり

■ 災害（地震、津波、大雨、火山等）に対する防災体制の強化等

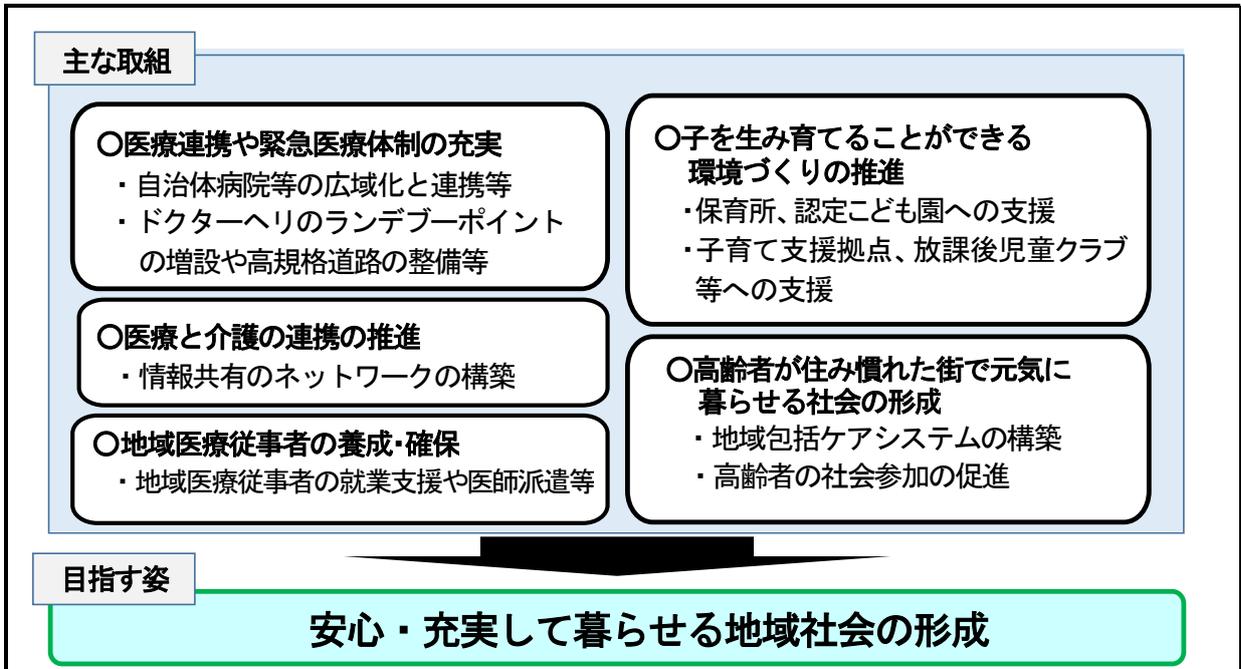
### 〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI）〉

○認定こども園設置数	3カ所（H26）	→	38カ所（H31）
〔内訳〕 上川	1カ所（H26）	→	28カ所（H31）
留萌	1カ所（H26）	→	4カ所（H31）
宗谷	1カ所（H26）	→	6カ所（H31）
○自主防災組織率	43.4%（H27）	→	81.0%（H32）

<施策毎の主な取組方向>

■ 全ての世代が安心して暮らせる環境づくり

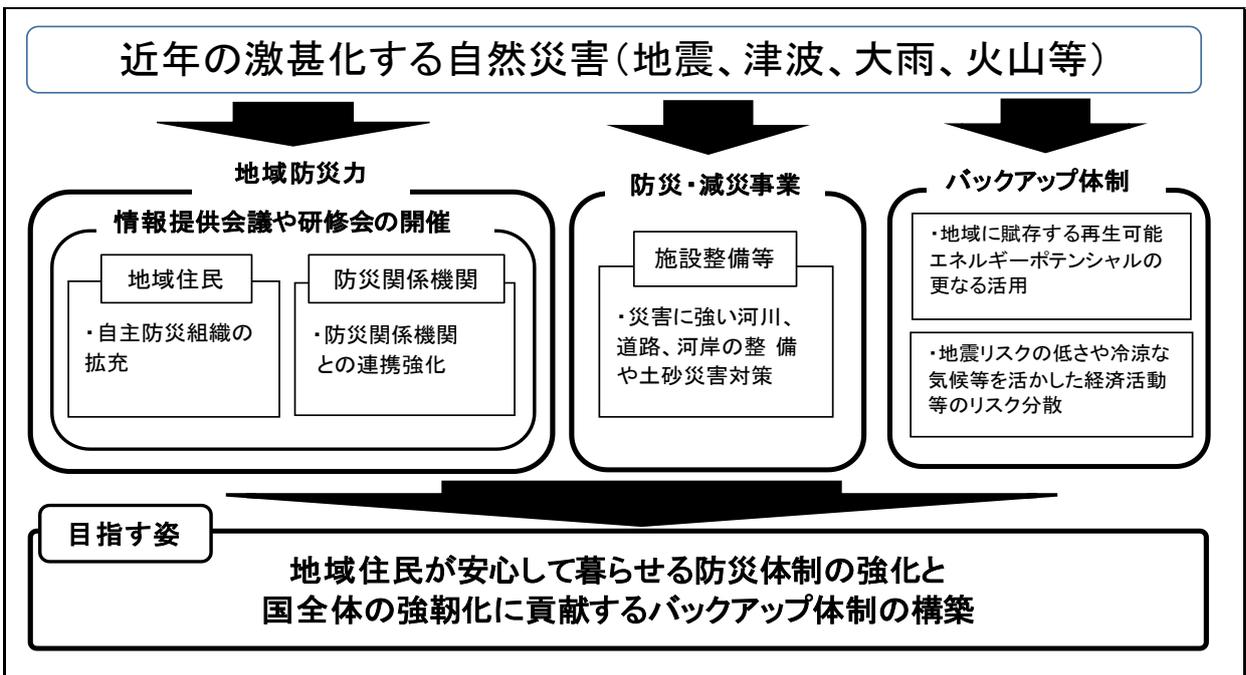
- 医療連携や緊急医療体制の充実（＊）
- 医療と介護の連携の推進（＊）
- 地域医療従事者等の養成・確保（＊）
- 子を産み育てることができる環境づくりの推進（＊）
- 高齢者が住み慣れた街で元気に暮らせる社会の形成（＊）



<施策毎の主な取組方向>

■ 災害（地震、津波、大雨、火山等）に対する防災体制の強化等

- 自主防災組織率向上への取組
- 防災関係機関との連携強化
- バックアップ体制の構築



## 関連する主な基盤整備

- 高規格幹線道路等の整備
  - ・高規格幹線道路の整備促進
  - ・地域高規格道路の整備推進
- 安全で安心な道路交通環境の整備
  - ・幹線道路や通学路等における交通安全対策の推進
  - ・地域医療を支える交通ネットワークの整備推進
- 冬期における安全で快適な道路交通の確保
  - ・冬期を踏まえた歩行空間の確保のための広幅員歩道の整備推進
  - ・地吹雪・雪崩対策など冬に強い道路の整備推進
- 災害に備えた安全な道路交通環境の整備
  - ・橋りょうの耐震補強
- 洪水や土砂災害、火山噴火や大規模地震、津波などに備えた安全性の高い災害防止施設の整備
  - ・火山砂防施設の整備推進、土砂災害対策施設の整備推進
  - ・総合的な治水・利水対策の推進
  - ・火山噴火警戒避難対策の推進

(\*) の取組は、北海道創生総合戦略の地域戦略に関連するもの

# 新エネルギー導入・活用推進プロジェクト

【推進エリア】道北連携地域（上川地域、留萌地域、宗谷地域）

【主な実施主体】国、道、市町村、民間

## 目 的

道北地域には、風力、太陽光やバイオマス、中小水力、地熱のほか、積雪寒冷な気候を活かした雪氷冷熱など、多様な新エネルギー資源が豊富に存在しています。留萌、宗谷地域では、恵まれた風況を生かした風力発電の開発が進められており、両地域で全道の風力発電出力数の50%以上を占めています。また、稚内市のメガソーラー発電施設を中核とした次世代エネルギーパークや、上川町の地熱発電計画、上川管内各地の木質バイオマスエネルギーを活用した取組など、各地域の特性を活かしたエネルギーの地産地消の取組が進められています。

しかし、新エネルギーの導入、活用を加速化させるには、採算性や法規制のほか、地域社会の理解や協力、送電網の容量など、解決しなければならない課題も多くあります。

こうしたことから、連携地域を構成する上川、留萌、宗谷の各地域における新エネルギーの導入ノウハウや効果などについて情報共有を図るとともに、各地域の自然や産業に根ざした新エネルギーについて、導入に向けた活動の促進や活用の推進を図ります。

## 施策展開

- 【施策】
- 地域が連携した新エネルギー導入推進の取組
  - 自然に根ざしたエネルギーの地産地消に向けた取組
  - 木質バイオマスの安定供給やエネルギー利用の推進
  - 地熱発電の導入に向けた取組支援
  - 農村地域における新エネルギーの導入・利用拡大の推進
  - 中小水力発電施設の導入支援

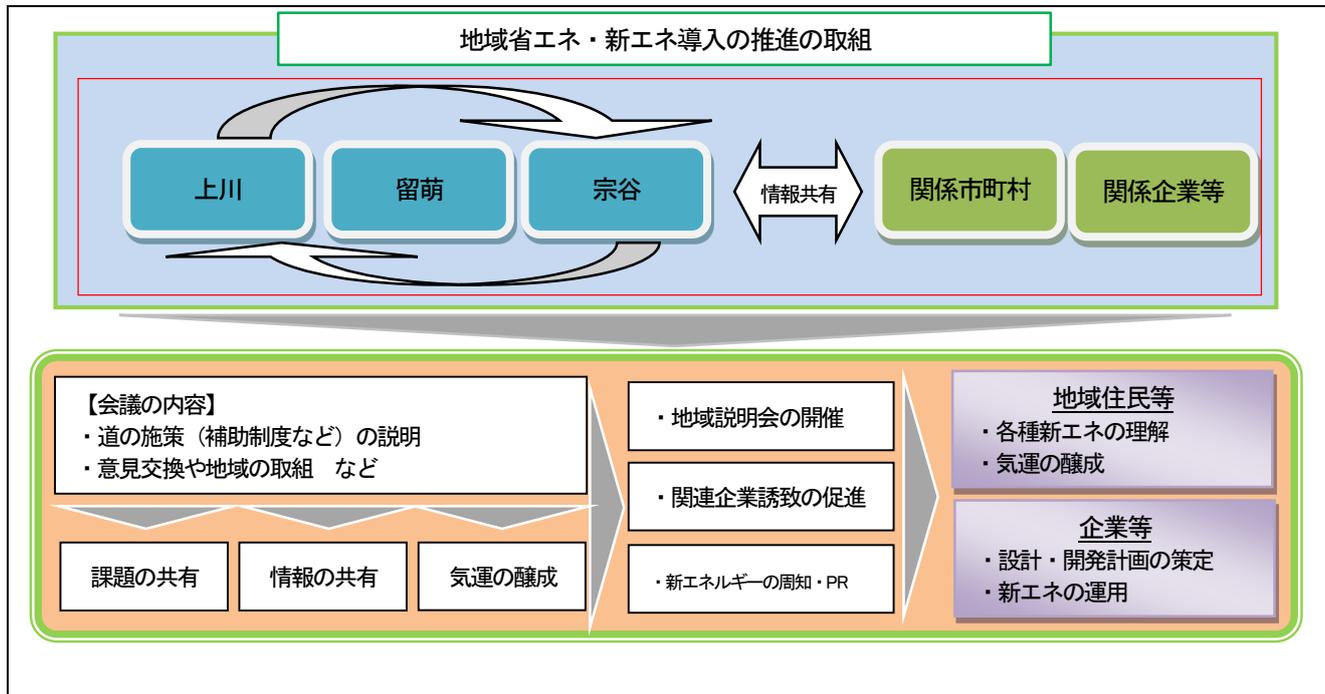
### 〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI）〉

○新エネルギーに関するサポート件数	23 件 (H26)	→	36 件 (H32)
[内訳] 上川	11 件 (H26)	→	18 件 (H32)
留萌	7 件 (H26)	→	6 件 (H32)
宗谷	5 件 (H26)	→	12 件 (H32)
○上川地域の木材・木製品出荷額	17,369 百万円 (H25)	→	20,360 百万円 (H31)

<施策毎の主な取組方向>

■ 地域が連携した新エネルギー導入推進の取組

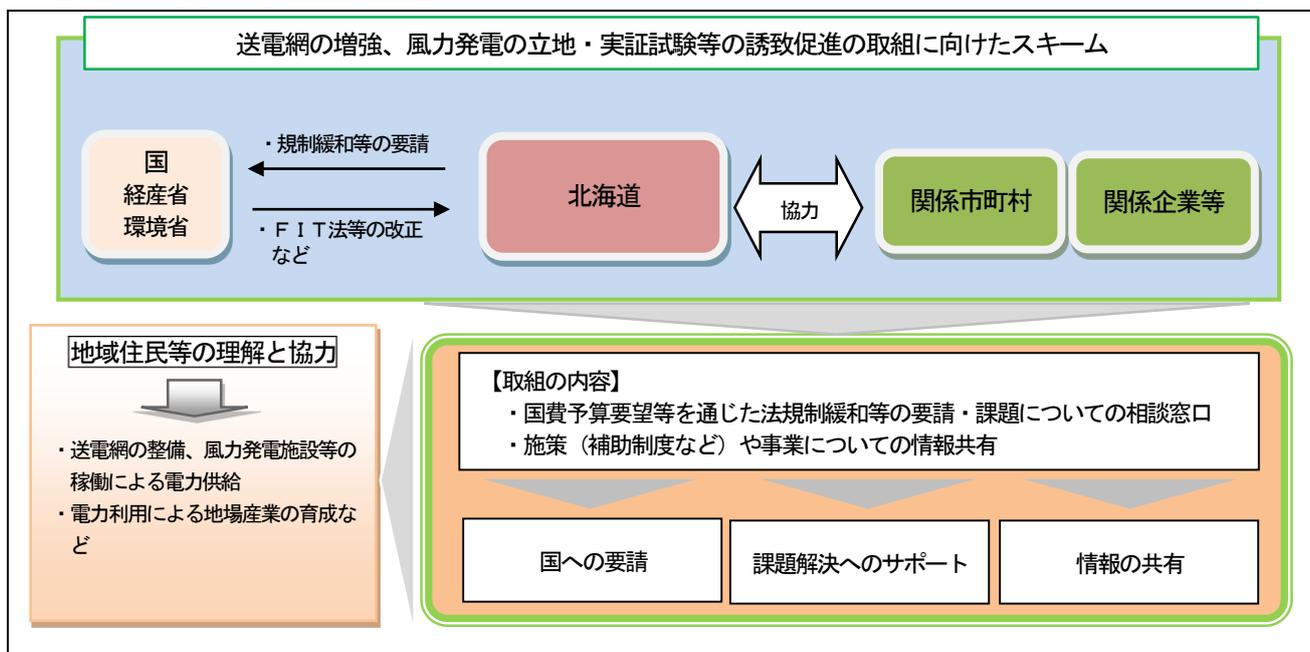
- 政策課題の発掘・整理や情報の共有
- 新エネルギーの周知・PR



<施策毎の主な取組方向>

■ 自然に根ざしたエネルギーの地産地消に向けた取組

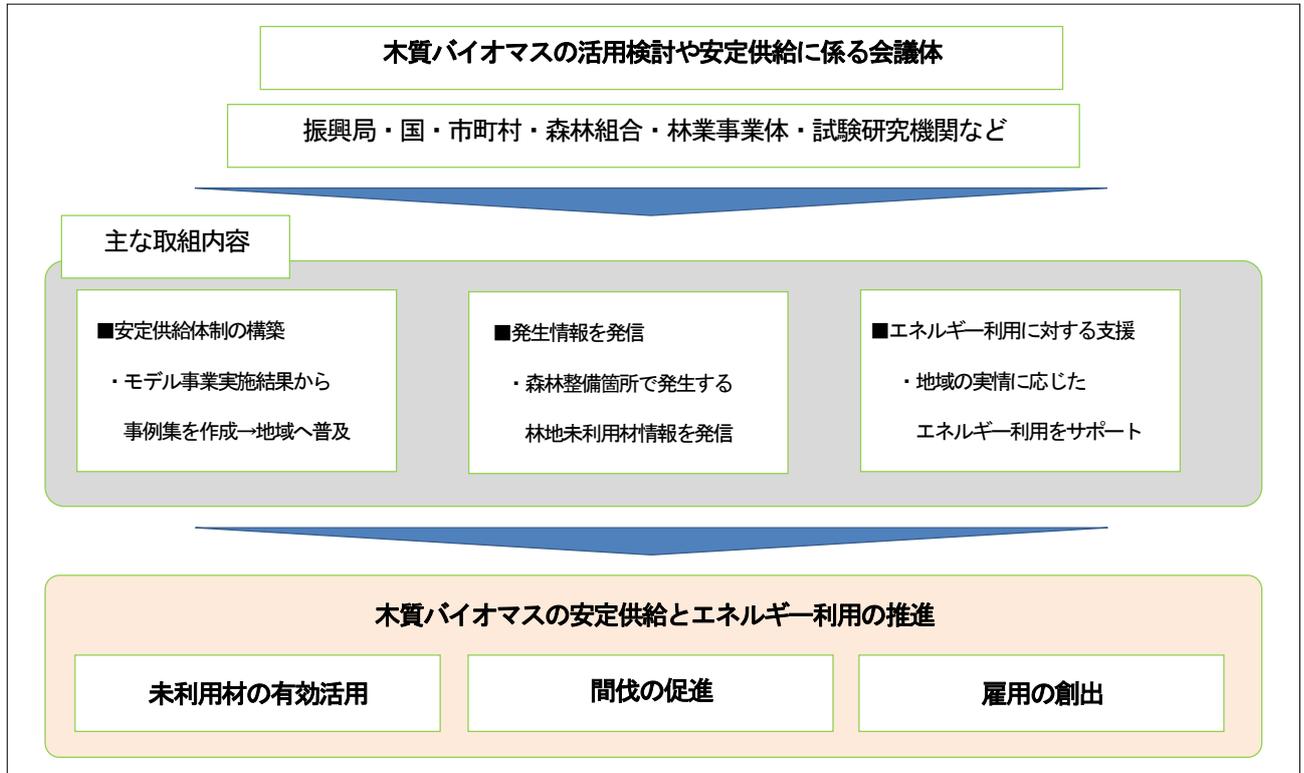
- 風力発電・太陽光発電など新エネルギーの取組の促進
- エコアイランド構想の推進



<施策毎の主な取組方向>

■ 木質バイオマスの安定供給やエネルギー利用の推進

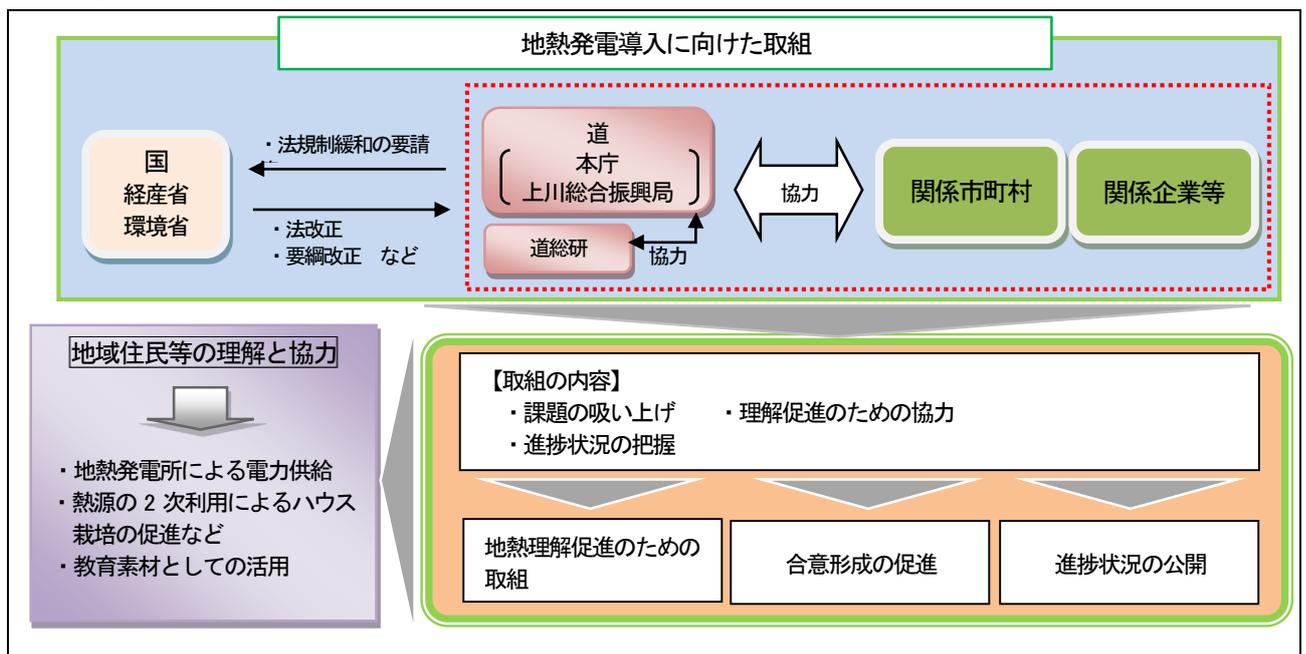
- 地域関係者が連携した木質バイオマス安定供給体制の構築（＊）
- 木質バイオマスの発生情報を発信（＊）
- 木質バイオマスのエネルギー利用に対する支援（＊）



<施策毎の主な取組方向>

■ 地熱発電の導入に向けた取組支援

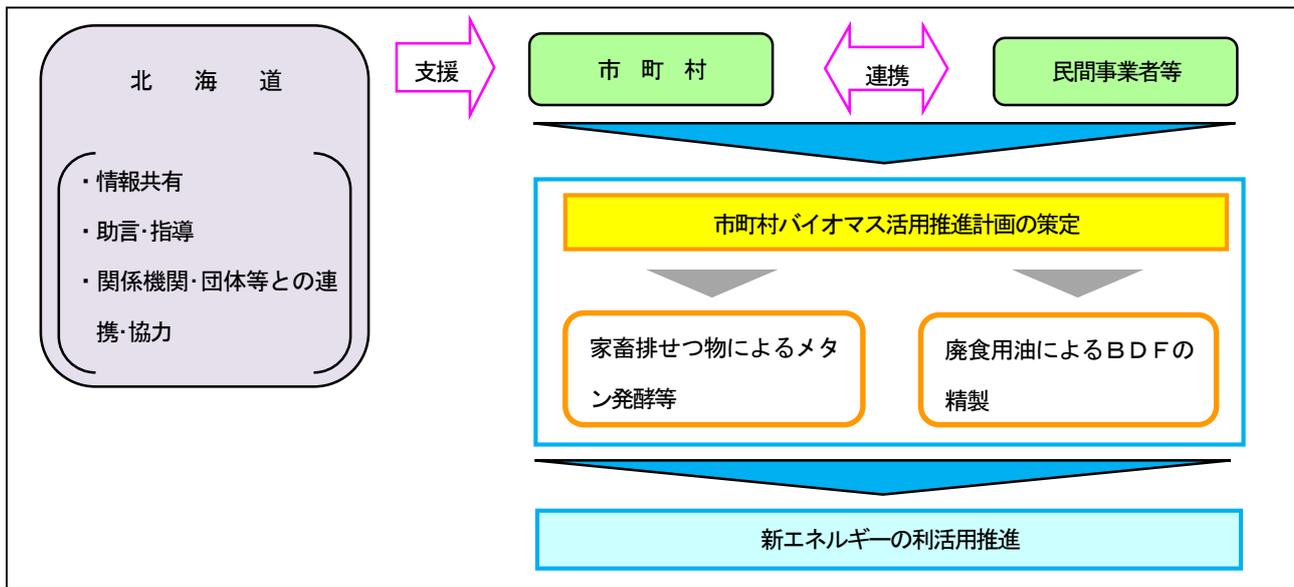
- 法規制等の課題解決に向けた関係機関への働きかけ
- 地域の合意形成の推進



<施策毎の主な取組方向>

■ 農村地域における新エネルギーの導入・利用拡大の推進

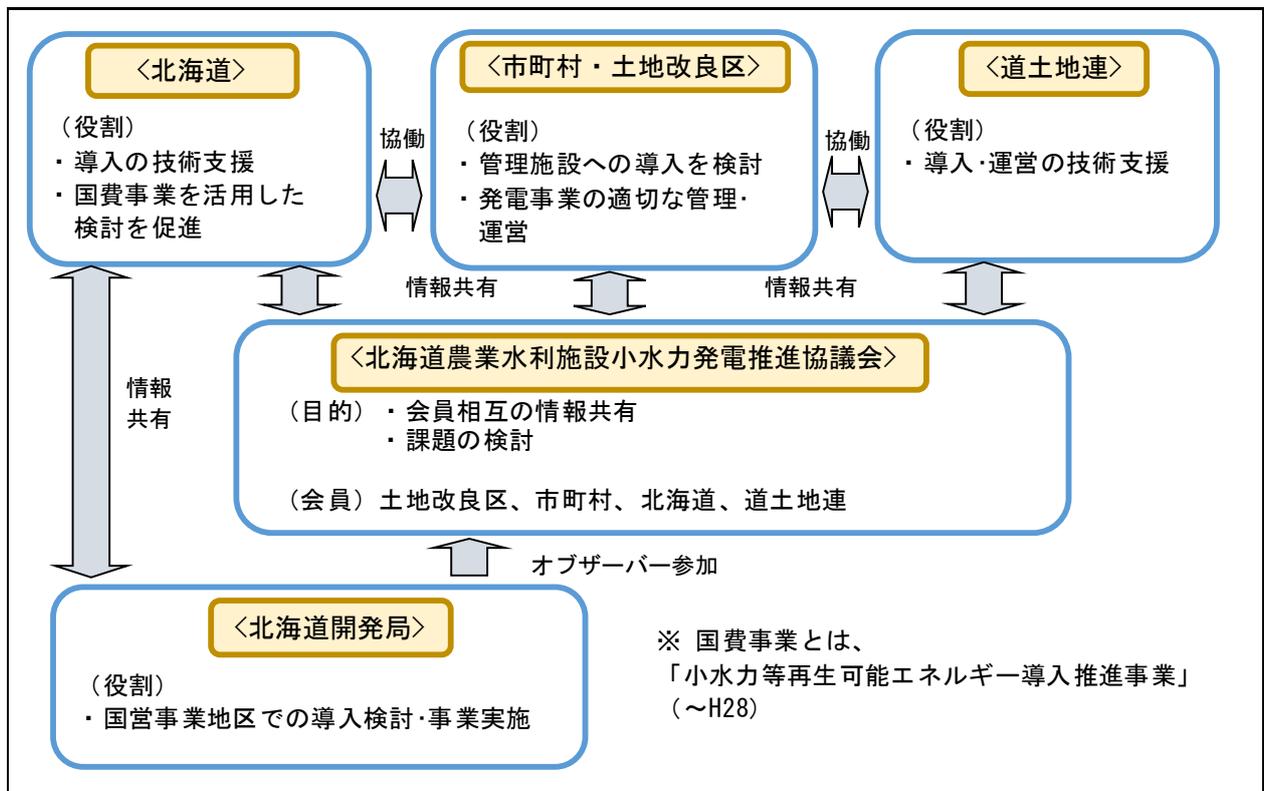
○農村地域におけるバイオマス利用拡大



<施策毎の主な取組方向>

■ 中小水力発電施設の導入支援

○中小水力発電施設の導入に係る各種事業制度の活用支援



関連する主な基盤整備

○送電網の整備促進

(\*) の取組は、北海道創生総合戦略の地域戦略に関連するもの

# ロシア極東との交流推進プロジェクト

【推進エリア】道北連携地域（上川地域、留萌地域、宗谷地域）

【主な実施主体】国・道・市町村・民間

## 目的

道北連携地域は、宗谷海峡を隔てて国境を接し、歴史的にも繋がりが深いロシア連邦サハリン州をはじめ、ロシア極東地域と地理的に近い位置にあり、これまで文化、スポーツ、観光など市町村や民間団体などによる友好交流が盛んに行われています。

また、近年は道北地域が連携し、「ユジノサハリンスク道北物産展」を開催するとともに、道産品の販路拡大に向けてウラジオストク市で試験販売を実施するなど経済交流の芽が育ちつつあります。グローバル化の潮流を捉え、人口減少に伴う域内需要の減少に対応するためにも、これまで築いてきた友好関係と地理的優位性を活かしたロシア極東地域との経済交流をより一層推進し、地域経済の活性化を図ります。

## 施策展開

- 【施策】 ■ サハリン州等との友好交流の推進  
■ ロシア極東との物流の活性化など経済交流の推進

### 〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI）〉

- 北海道における訪日ロシア人（新千歳空港等経由）  
5,949人（H26） → 7,400人（H32）
- 北海道からロシアへの道産食品の輸出額  
594百万円（H26） → 850百万円（H32）

### ＜施策毎の主な取組方向＞

- サハリン州等との友好交流の推進
- 姉妹都市との交流事業の実施（＊）
  - 文化・スポーツ交流事業の実施（＊）

### 道北地域の特徴

○道北地域とサハリン州は、地理的近接性や歴史的な経緯から様々な交流を実施。

### 主な取組

○友好都市との青少年や職員の相互派遣  
○文化・スポーツ交流の実施

### めざす姿

○住民の多文化共生や国際理解の促進  
○交流人口の拡大

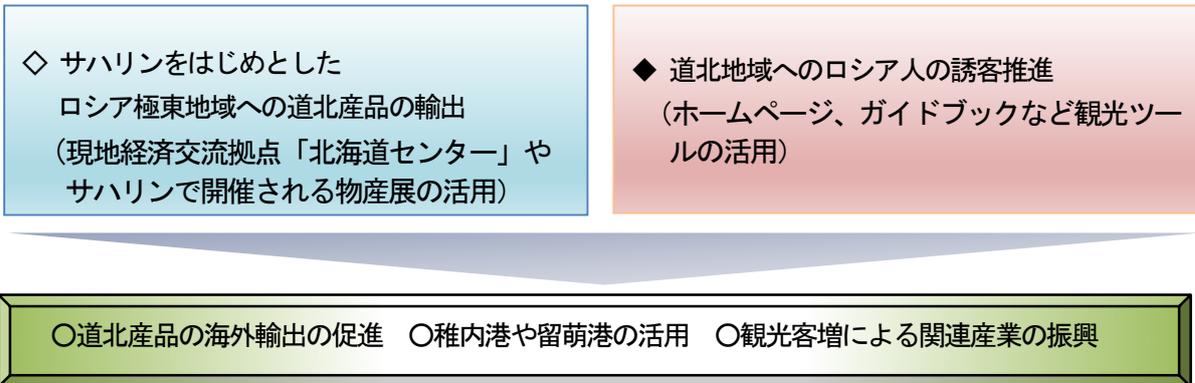
### 交流自治体

道北：稚内市、猿払村、天塩町、旭川市、名寄市、剣淵町  
サハリン州：ユジノサハリンスク市、ネベリンスク市、コルサコフ市、オジョールスキ村、トマリ市、ドーリンスク市、アニワ市

<施策毎の主な取組方向>

■ ロシア極東との物流の活性化など経済交流の推進

- 道産品の販路拡大に向けた取組の実施（＊）
- 人流拡大に向けた道北地域の魅力発信（＊）



関連する主な基盤整備

- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備
  - ・空港・港湾などの物流拠点へのアクセス道路の整備
- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
  - ・外国人のための外国語標記の案内板の整備

(＊) の取組は、北海道創生総合戦略の地域戦略に関連するもの

# 天塩川ブランド力向上プロジェクト

【推進エリア】道北連携地域（上川地域、留萌地域、宗谷地域）

【主な実施主体】道、市町村、民間

## 目 的

天塩川周辺地域は、天塩岳にはじまり音威子府溪谷などを経て、河口域に広がるサロベツ原野に至る豊かな自然や美しい景観があります。また、上流部の豊富な森林資源を活用した林業や、上・中流域の肥沃な農地に支えられた稲作・畑作が営まれ、下流域には大規模な酪農地帯が広がっており、さらに、河口近くでは、サケ・マス漁が盛んに行われているほか、環境変化等で減少したシジミ資源の回復に取り組んでいます。

しかし、この地域には様々な魅力ある地域資源があるものの、都市部から離れていることや知名度の低さから、観光客やイベント集客数が低い状況にあり、地域全体で天塩川の恵みを再認識し、そこを基軸とした広域連携の取組を強化し、情報を発信していくことが必要です。

このため、この地域の美しい景観や川の恵みを生かした「食」、「自然豊かな住環境」等を道内外に発信することにより、「天塩川」の価値をさらに高め、天塩川周辺地域の交流人口拡大に向けた取組を推進します。

## 施策展開

- 地域連携による絆の強化
- 魅力創造・情報発信によるブランド力の強化

### 〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI）〉

○移住体験者滞在日数（延べ日数）	4,517 日 (H26)	→	8,100 日 (H32)
[内訳]			
上川	2,997 日 (H26)	→	5,390 日 (H32)
留萌	715 日 (H26)	→	1,310 日 (H32)
宗谷	805 日 (H26)	→	1,400 日 (H32)
○観光入込客数（天塩川周辺地域）	308 万人 (H26)	→	313 万人 (H32)
[内訳]			
上川	240 万人 (H26)	→	244 万人 (H32)
留萌	29 万人 (H26)	→	30 万人 (H32)
宗谷	39 万人 (H26)	→	39 万人 (H32)

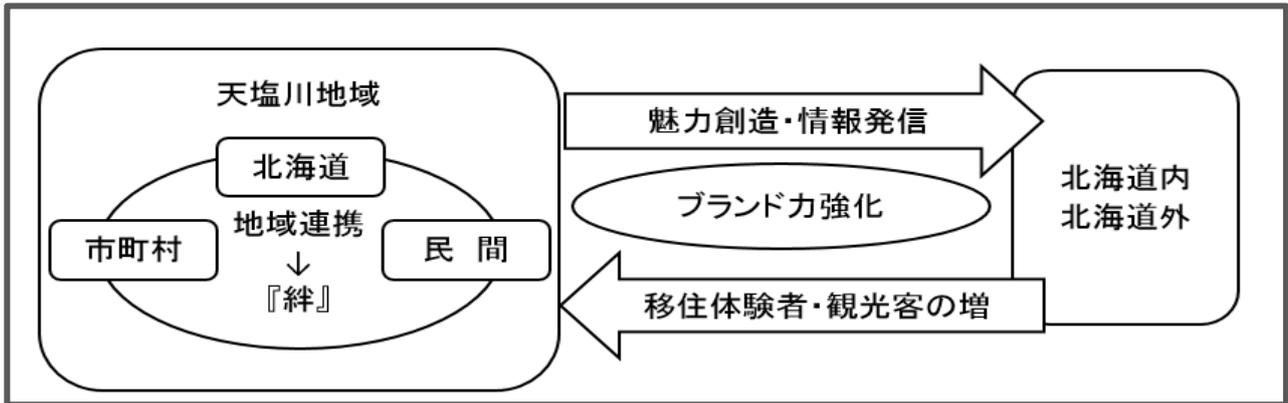
<施策毎の主な取組方向>

■ 地域連携による絆の強化

- 天塩川の恵みの再認識（\*）
- 地域連携の強化（\*）

■ 魅力創造・情報発信によるブランド力の強化

- 環境や地域資源を活かした地域づくり（\*）
- SNS等を活用した情報の発信（\*）



関連する主な基盤整備

- 高規格幹線道路等の整備
  - ・高規格幹線道路の整備促進
- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
  - ・自然豊かな水辺環境の整備・保全
  - ・良好な水辺環境の保全・創出を推進

（\*）の取組は、北海道創生総合戦略の地域戦略に関連するもの

# 地域産業の担い手育成・確保プロジェクト

【推進エリア】 上川地域

【主な実施主体】 国・道・市町村・民間・教育機関

## 目的

上川地域においても今後、人口減少を迎える中、農林業や商工業など地域経済を支える産業の担い手や後継者の不足が懸念されており、その対策が必要となっています。

このため、上川地域の魅力や産業・雇用などの情報を広く発信し、若年層をはじめとする現役世代の移住・定住を促進するほか、農林業の担い手の育成や確保、中小企業等の事業承継の推進など、今後の人口減少社会を見据えた地域産業の担い手・後継者対策を進めていきます。

## 施策展開

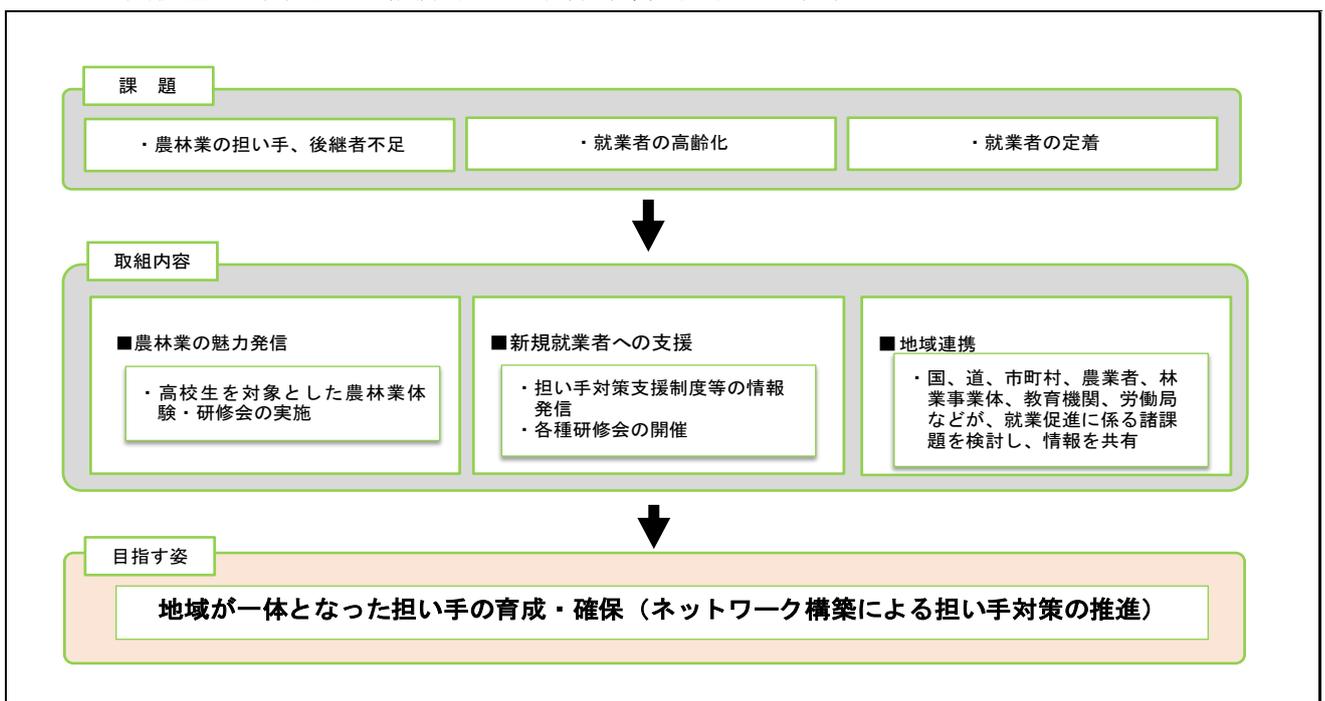
- 【施策】
- 農林業の担い手育成・確保に向けた取組の推進
  - 中小企業の事業承継に向けた取組の推進
  - 高等学校や大学などの高等教育機関と連携した取組の推進
  - 担い手確保に向けた移住の促進

### 〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI）〉

○地域産業への新規就業者数	農業	124人 (H25)	→	150人 (H31)
	林業	36人 (H25)	→	40人 (H31)
○事業承継に関するセミナーの地域での開催延べ回数		4件 (H27)	→	14件 (H32)
○管内新規高卒者の就職者に占める管内就職の割合		80.2% (H26)	→	85.0% (H32)

### ＜施策毎の主な取組方向＞

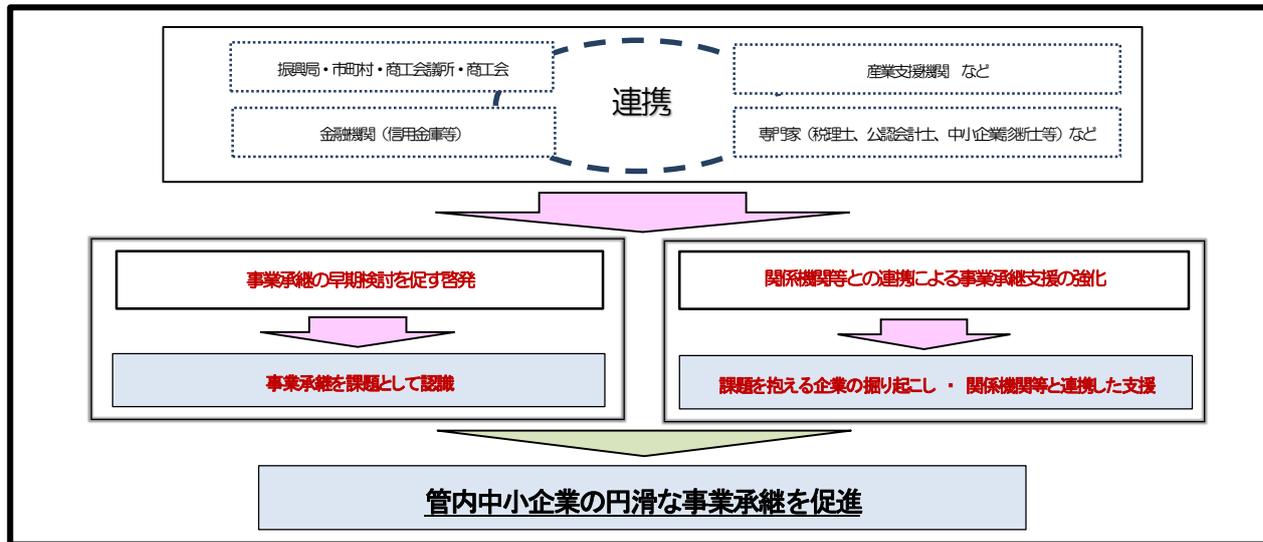
- 農林業の担い手育成・確保に向けた取組の推進
  - 新規就農者等を対象とした研修会の開催（＊）
  - 高校生を対象とした農業研修や林業学習会の実施（＊）



<施策毎の主な取組方向>

■ 中小企業の事業承継に向けた取組の推進

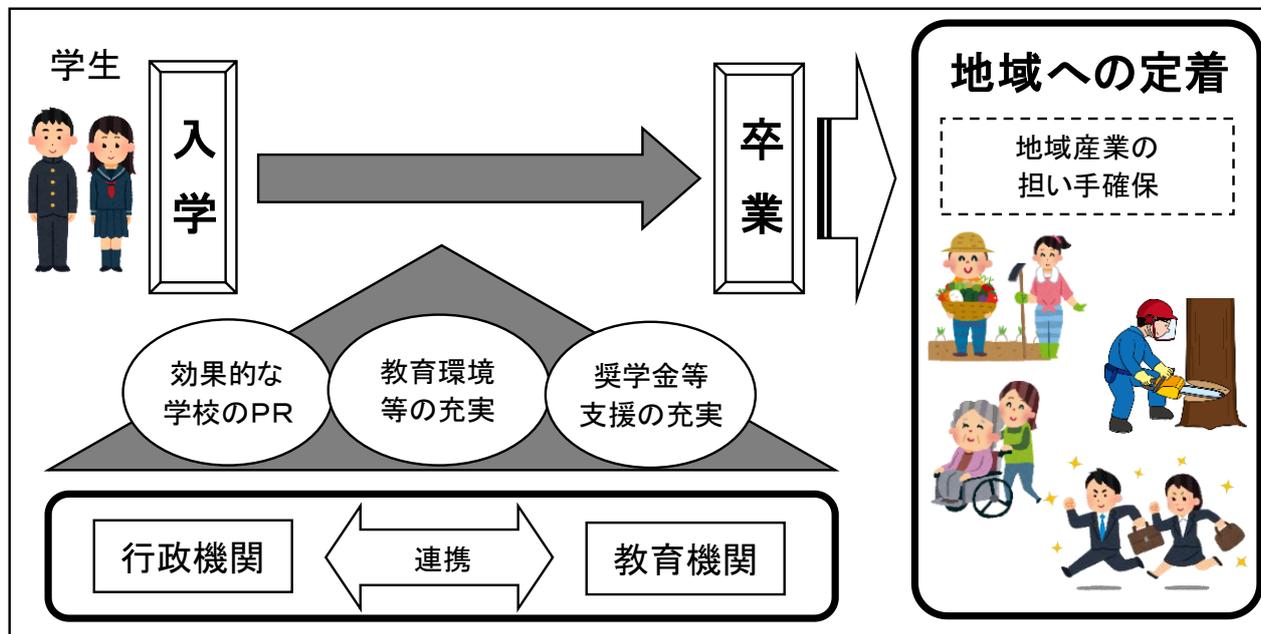
- 事業承継の早期検討を促す啓発（＊）
- 関係機関等との連携による事業承継支援の強化（＊）



<施策毎の主な取組方向>

■ 高等学校や大学などの高等教育機関と連携した取組の推進

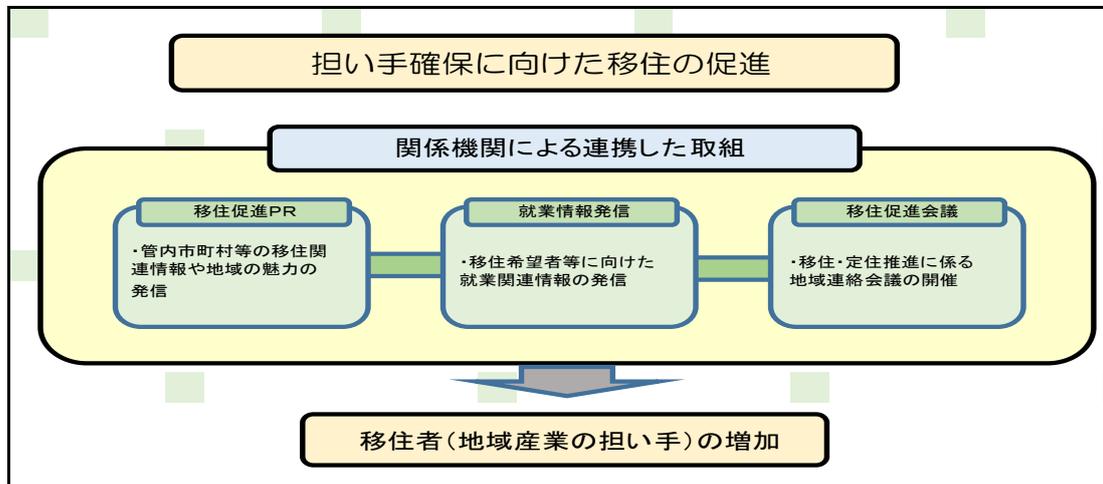
- 学生の確保に向けた効果的なPRの実施や教育環境等の充実（＊）
- 支援制度の充実など学生の地域定着に向けた取組の推進（＊）



<施策毎の主な取組方向>

■ 担い手確保に向けた移住の促進

- 移住関連情報の発信や地域の魅力PR
- 移住希望者向け就業関連情報の発信
- 関係機関との連携による移住促進会議等の開催



関連する主な基盤整備

- 公立学校施設の整備

(\*) の取組は、北海道創生総合戦略の地域戦略に関連するもの

# 上川地域の強みを活かした農林業振興プロジェクト

【推進エリア】 上川地域

【主な実施主体】 国、道、試験研究機関、大学、市町村、民間

## 目 的

多種多様な農畜産物が生産される上川地域の農業においては、良食味米をはじめとした高品質で安全・安心な農産物の生産を促進するとともに、省力化・コスト低減に向けた取組を進めます。

また、全道一の森林面積を擁する林業においては、豊かな森林資源を活かし、持続可能な森林づくりの取組を通じて地域材の利用を促進します。

こうした取組のほか、農林産物を利用した6次産業化や農商工連携による付加価値の向上に向けた取組を進めるなど、地域が有する豊かな資源を活かし、上川地域の基幹産業である農林業の持続的な発展を図ります。

## 施策展開

- 【施策】
- 農業生産の省力化・高収益化と農産物の高付加価値化等の推進
  - 適切な森林管理と地域材の利用拡大の推進
  - 農商工連携による地場産品の高付加価値化や販路拡大

### <プロジェクトの重要業績評価指標（KPI）>

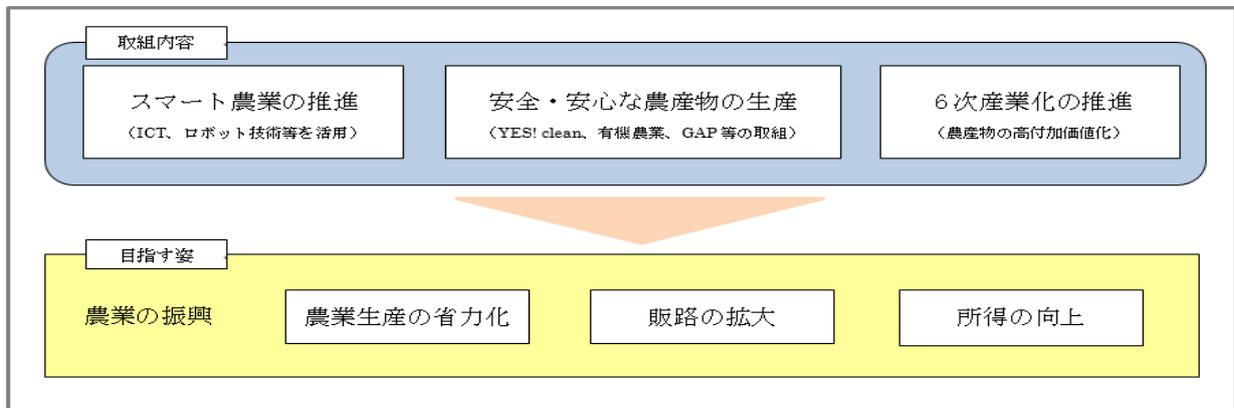
○省力化による作物作付面積の維持      79,213ha（H25） →      79,000ha（H31）

○上川地域の木材・木製品出荷額      17,369百万円（H25） → 20,360百万円（H31）

<施策毎の主な取組方向>

■ 農業生産の省力化・高収益化と農産物の高付加価値化等の推進

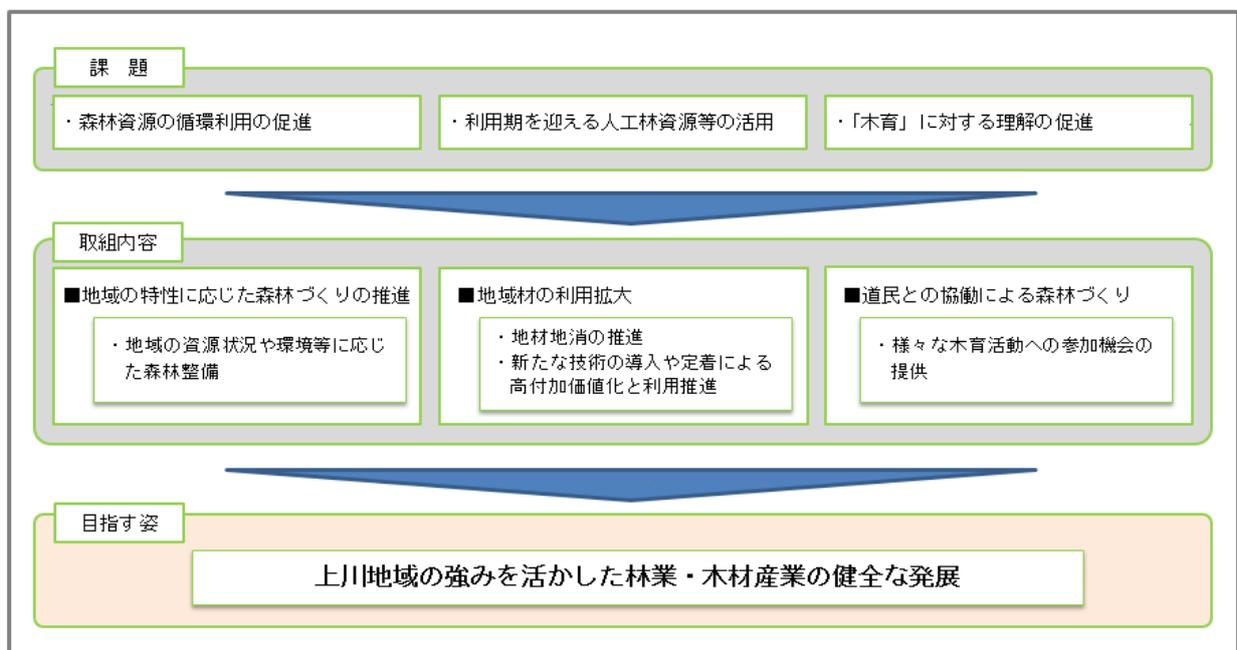
- 地域の実情に応じた生産技術指導（＊）
- YES!clean 農産物、有機農業、農業生産工程管理(GAP)への取組拡大（＊）
- 農業の6次産業化の推進（＊）



<施策毎の主な取組方向>

■ 適切な森林管理と地域材の利用拡大の推進

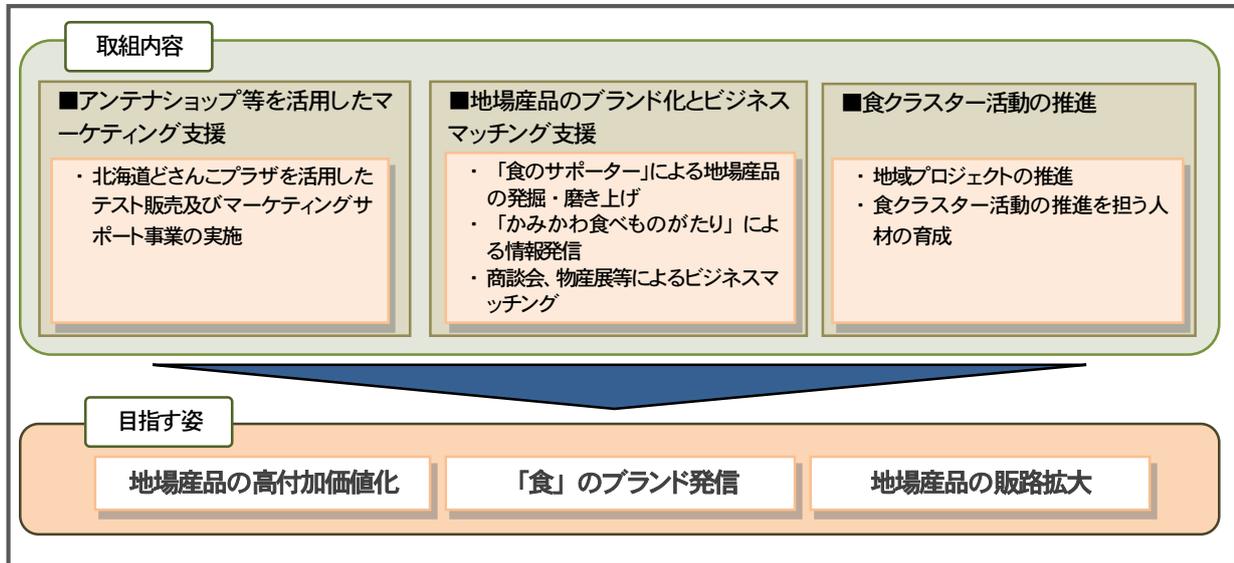
- 地域の特性に応じた森林づくりの推進（＊）
- 地域材の利用拡大（＊）
- 道民との協働による森林づくり（＊）



<施策毎の主な取組方向>

■ 農商工連携による地場産品の高付加価値化や販路拡大

- アンテナショップ等を活用したマーケティング支援（\*）
- 地場産品のブランド化とビジネスマッチング支援（\*）
- 食クラスター活動の推進（\*）



関連する主な基盤整備

- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
  - ・農業生産基盤の整備促進
- 健全な森林の整備と保全の促進
  - ・森林及び路網の整備促進
  - ・山地災害を防ぐ治山施設の整備
- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備
  - ・高規格幹線道路と一体となった道路の整備促進
  - ・空港、港湾などの物流拠点やICへのアクセス道路の整備促進
- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
  - ・観光拠点へのアクセス道路の整備促進
- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
  - ・河道の連続性に配慮した河川や砂防施設の整備促進
  - ・良好な水辺環境の保全・創出

（\*）の取組は、北海道創生総合戦略の地域戦略に関連するもの

# 人と自然をつなぐ大雪山魅力発信プロジェクト

【推進エリア】 上川地域

【主な実施主体】 国、道、市町村、民間

## 目的

上川地域は、全国から登山客が訪れる大雪山連峰等を擁しており、これまでも自然豊かな大雪山の魅力を発信するとともに、大雪山の恵みである清らかな水や豊富な農作物、素晴らしい景観などを生かし、地域のイメージアップに取り組んできたところです。

しかしながら、近年、中高年を中心とした登山ブームの中でのオーバーユースによる登山道の荒廃や山岳トイレ問題、さらにこれらに端を発する貴重な高山植物の減少などの問題が顕著となってきました。

このような状況を踏まえ、大雪山の貴重な自然を守り次世代に引き継ぐため、登山者や観光客の環境保全意識の向上を図るための事業を展開するほか、まだ知られていない大雪山の観光資源などを発信し、より一層魅力ある地域づくりを進めます。

## 施策展開

- 【施策】
- 魅力的な自然環境の保全・活用
  - 大雪山の魅力や恵みを活かした地域づくりの推進

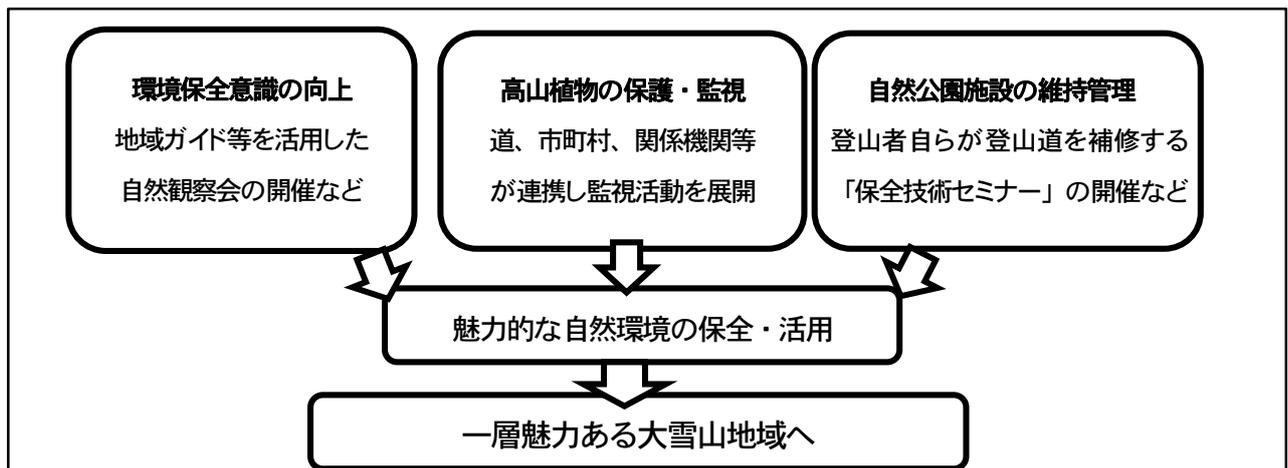
### 〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI）〉

○自然観察会参加人数	60人（H27）	→	60人（H32）
○観光入込客数（上川中部）	1,133万人（H26）	→	1,353万人（H32）

＜施策毎の主な取組方向＞

### ■ 魅力的な自然環境の保全・活用

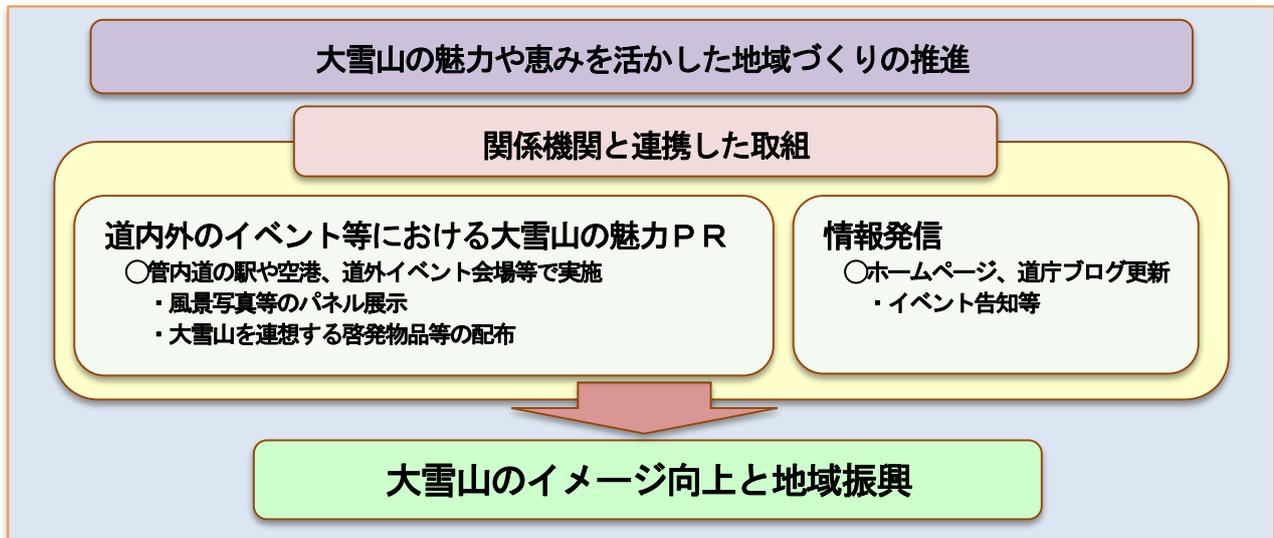
- 自然観察会等による環境保全意識の普及啓発
- 高山植物保護のためのパトロール
- 歩道・施設の維持管理



<施策毎の主な取組方向>

■ 大雪山の魅力や恵みを活かした地域づくりの推進

- 道内外のイベント等における大雪山の魅力PR（\*）
- 大雪山周辺地域のイメージアップに向けた情報発信（\*）



関連する主な基盤整備

- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
  - ・河道の連続性に配慮した砂防施設の整備推進
  - ・良好な水辺環境の保全・創出を推進
- 高規格幹線道路等の整備
  - ・地域高規格道路の整備推進
- 安心して快適な旅が出来る交通ネットワークの整備
  - ・観光拠点へのアクセス道路の整備推進

（\*）の取組は、北海道創生総合戦略の地域戦略に関連するもの